青

鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

八月號目次

ソニヤ・コヴァレスキイの自傳……一……野上彌生子譯
まよひ……二七……三ヶ島葭
眞實の光……二九……岩淵百合
「性」に就て……三〇……上野葉
戀愛の自由……五〇……エレン・ケイ
暗中より……六六……齋賀琴
森田草平氏に……六八……らいてう
廣がる愛……八三……生田花世
最近の感想……九二……野枝 房枝 らいてう
編輯室より其他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴァレフスキィの自傳——野上彌生子譯

第十一章　セント・ピエテルブルグの冬。

ドストエフスキイ

セント・ピエテルブルグに着くや、早速アニウタはドストエフスキィに招待狀を送りました。而して二人の姉妹は熱心に胸を躍らして彼の訪ねて來るのを待ち構へてゐました。けれどもそれはすつかり失望に終つて仕舞ひました。

イヴァン・セルゲゼエヴィッチは、娘等が彼に逢ふ時には妻にもその場に居るようにと堅く云ひつけてありました。ですからドストエフスキィが、示めされ時刻に行つて見ますとアニウタはお母樣だの、その他此の有名な人を見たがつてゐる年寄りの伯母さん達だのに取り卷かれてるところでありました。ターニャも居させて貰ひました。アニウタは大層これを迷惑がつて錄に口も聞きませんでした。ドストエフスキィも又失望してゐて、エレナ・パウロヴナが幾ら面白い話をして行かうとしてもすつかり駄目でありました。みんな不快

な氣持ちがしました。一時間半ばかり居てから、訪ねて來た人は坐を立つて貴婦人達にぶつきら棒なお辭儀をしたまゝ、誰とも握手をしないで出て行きました。

アニュウタは斯んな風で自分の樂しみを滅茶〻苦茶にされたのを非常に失望しました。お母樣も何故とは分らぬなりに氣の毒な、罪なやうな氣がしました。

ドストエフスキィの顏つきや物越しは不快な印象を殘しました。薄い黄色い鬚を捻つたり、唇を嚙んだりばかりしてゐて、話と云つても優しいと云ふ以外には何んにもありませんでした。

けれども五六日してから又彼は訪ねて來ました。今度は運のよかつた事には二人の姉妹だけでありました。彼はアニウタの手を取つて、一所に長椅子の上に坐つて、古くからのお友達のように話をしました。ターニャは默つてその側に坐りながら、眼はフェードル・ミカヨロヴィッチをずつと見詰めて、非常な興味を以つて彼の話す一言一句を飲み込んでゐました。今度は何んと云ふ違ひでせう。彼は大層若く見えました。而して單純で、優しくつて、物越しも自然のまゝで、うつとりするやうでありました。ターニャは彼がすつかり氣に入つて仕舞ひました。

『なんてまあ美しい小さいお妹さんをお持ちなんです。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と思ひがけなくも彼はアニウタに斯う申しましたので、アニウタは妹を褒められて乗り氣になりました。ターニャは韻文を書きましたと云ふやうな話までして、その詩を見せました。ドストエフスキィは一ッ二ッ聲高く讀んで見て、それに就いて色々云つて呉れました。ターニャは嬉しさが一杯でまつ赤になりました。彼女は自分に斯うまで親切にして呉れる人と、自分が斯うまで感歎してゐる人とのこの二人のためには、生命も捨てる事が出來ると思ひました。

皆んな時間も忘れて仕舞つてゐますと、三時間ほどしてとうとエレナ・パウロヴナが買物から歸つて參りました。彼女は客間にドストエフスキィが娘達ばかりとゐたのを見ると、非常に驚いて、一寸とハッとしました。けれど皆んなが餘り愉快に嬉しそうにしてゐましたからその心配も直ぐ忘れて、ドストエフスキィにずつと居て、一緒に御飯を食べて下さいと勸めたほどでありました。その日から彼はその家の常客となりました。彼は社交界には決して立ち入らうとはしませんでしたが、たゞ少數の自分を了解して慕つて呉れるお友達と一所になつて話をすることなぞ好きでありました。而して過去の生涯の色んな波瀾のある出來事に非常に面白い、寫實的な叙述をしたり、何か書かうと思つゐる小説の内容を話したりしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼の一番樂しい思ひ出でと云ふべきものは、最初の傑作たる『貧しき人々』の出版に關するものでありました。この小説は非常な成功を收めましたが、まだずつと若い頃に書いたのでありました。彼はそれを有名な批評家のブリンスキイが出してゐた「現代」と云ふ雜誌へ送りました。而して當時の花形であつた詩人のネクラソフと有名な小説家のグレゴロヴィッチから寄書を受けました。その時露西亞文學には凡てに渡つて偉大な復活が起つたのであります。ツルゲエネフ、ゴンチャロフ、ヘルツェンは彼等の處女作で現はれました。世人は文學的作物に非常に興味を示めして、書物や雜誌の要求は今までにないほど盛んなものとなりました。

一八四八年は叛亂の年でありました。全歐州は大騷動をしてゐました。

セント・ピエテルブルグでは取り分け大學の學生や、工業學校の生徒の間に、非常に澤山な小團體が結ばれてゐましたが、これは初めはたゞ皆んなして文學を研究するだけの事だつたのであります。けれども警察は命令を下して種類の如何に依らず凡ての團體を禁じだものですから、止むなく若い人々は秘密に會合しなければならなくなりました。而してだん／＼と政治的の性質を帶びて來たのであります。非常に明敏な人で、フウリエ（譯者註フウリエ Fourier は一七七二年に生れて、一八三七に死んだ佛蘭西の社會學者で、今までに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない全く新らしい社會上の原理を發見した人であります。著書が數種あります。後年にヴェルサイユの近傍に自分の學說に基いた一社會を建てやうとしましたが、それは成就しませんでした。）の熱心な信者であつたペトロチェフスキィは、斯んな凡ての小團體を合して、一つの大きな政治的の秘密結社を作らうと云ふ理想を案じ出した最初の人であります。けれどもペトロチェフスキィやその一味の者は、一般の謀叛や、皇帝の生命を危くするやうな企てには加はりませんでした。彼等の目的は後年の虛無黨的の傳道法に比べると無邪氣なものらしくあります。その秘密會合で議論する問題は、主に抽象的なもので、時に依ると寧ろナイーヴなものでありました。例をあげますと、探偵や裏切人を殺すのと博愛主義の原理とは兩立されるかとか、希臘敎會の敎義とフウリエの理想とは一致してゐるか、と云ふやうな事であります。

ドストエフスキィはペトロチェフスキィの仲間に加はつてゐました。後に色々調べて見ますと、彼の罪と云ふのは或時その秘密會合でフウリエの學說を書いたものを讀んだのと、秘密出版所を建てる計畫に與つてゐた爲めのやうであります。

此犯罪の刑罰は——西伯利亞であります。

一八四九年の四月二十三日はペトロチェウスキィ一派の運命の日でありました。首領と

三十人の黨員はこの日拘引せられました。

ドストエフスキィは彼等の長い間の禁錮と苦役の事を委しく、寫實的に話して呉れました。

『明けの年の正月二十三日になつてやつと牢屋の中にゐる私に宣告が下りました。銃殺されることに極まつたのです！

『時日のところは何の話もありませんでしたが、それから一時間もたゝないうち典獄がやつて來て、ちやんと着物を着よと申しました。嚴重な警護で庭へ引き出されると、其處には十九人の仲間が待つてるところでした。私共は四人に一人づゝ兵士が附いて馬車に乘せられました。

『「何處へ行つてるんだろう。」と私共は尋ねました。「話してあげる譯には行きません。」と兵士は答へるのです。馬車の窓は氷で蔽はれゐますから、何んにも外の方を見る事は出來ません。

『とうと私共はセナゼノヴスキイの廣場へ着きました。廣場のまん中には絞首臺が立つてゐるんです。私共はその上に連れて行かれて、二列に並ばされました。嚴重に見張られてゐますから、すぐ側にゐる者とでも、一寸とした事しか話されませんでした。

『一人の執行官が絞首臺の上へ現はれて、私共の死刑の宣告を讀み上げました。直ちに執行される事になつてゐるんです。

『二十遍「銃殺に處す」と云ふ恐ろしい言葉が繰り返されました。その言葉は到底消されぬように私の記憶に刻みついたので、ずつと後年まで眞夜中に眼が覺めるとそれを讀んでるのが聞えるやうな氣がしました。けれどもそれと同時に私は直ぐと斯う云ふ他の場合を思ひ出します。役人は讀み上げを終るとその紙を疊んでポケツトに入れました。それから絞首臺を下りて行きました。此瞬間に太陽は雲を被りました。すると私には「そんな事が出來るものか、あの人達が我々を殺すなんて思つてるものか。」と云ふ氣がしました。私はその言葉を、一番側にゐた仲間の者に囁きました。けれどもその男は返事はしないでたゞ絞首臺の近くに大きな切れで蔽はれて立つてゐる一並びの棺桶を指しました。

『私の凡ての希望は忽ち消へて仕舞ひました。而して數分のうちに銃殺される積りになつてゐました。

『怖ろしくて堪りませんでしたが、何んにも怖い樣子を見せまいと決心して、私は絶えず他の事を仲間に話してゐました。その男は後になつて、私は大して青い顏もしてゐなかつたと申しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『突然一人の僧侶が絞首臺に上つて、罪人で誰か自分の罪を懺悔し度いものはないかと聞きました。それに應じたのはたつた一人しかありませんでしたが、僧侶が十字架をさし出した時には皆んなそれに唇を當てました。

『一番の重罪人と思はれてゐたペトロチェヴスキィともう二人の人は既に柱に結びつけられて、頭には袋のようなものをかぶせられてゐました。而して兵士等共は「打て！」の命令で發砲するばかりにして立つてゐました。

『私はまだ五分間は生きてゐられるだらうと思はれました。この瞬間が怖くて堪らなかつた。私は鍍金した圓屋根が朝日に照り輝いてゐる一つのお寺をぢつと見詰めてゐました。すると突然その光線は、瞬時のうちに自分の居る事になつてゐる邊から來るような氣がしました。

『ところへ何か皆んなざわつきました。私は非道い近視眼でしたから、何んにも見分けがつきませんでしたが、それでも何か異常な事が起つてるのだと感じられました。終に私は一人の士官が白いハンケチを振りながら、廣場を横ぎつて馬を駈けさせて來るのが目に入りました。この士官は私共の赦免を申渡すために皇帝から寄越されたのでありました。後になつて死刑の宣告は「忘られぬ教訓」として企てられた威嚇に過ぎなかつたのだと分り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ました。けれども此教訓は私共の多くに取つては恐ろしい結果となりました。グリゴリーエフは柱から解かれた時には、その運命の射撃を待つてゐる間に受けた恐怖のために氣違ひになつて、決して正氣に返りませんでした。私は一人たりともその神經組織に生涯の傷害なしに免れたものはないと思ひます。

『その上絞首臺に上げられた時には着物を脫がされましたから、氷點下列氏二十度の寒さに、二十分以上もシャツ一枚になつて立つてゐなければなりませんでした。牢屋へ歸つて來ると、耳や足指の氷つた者もありました。肺臟を犯されて肺病になつて仕斃つたものもあります。私自身はどうであつたかと云ふと、寒いと云ふような感覺はこれぽつちもあつたようには思ひません。

『死刑の宣告は變じて西伯利亞に於ける八年間の懲役の上に、長い間追放される事となりました。』

ターニャとアニウタはドストエフスキイが癲癇の發作に惱むのを知つてゐました。けれども二人はこの病氣には何となく物怖ろしいような思ひが伴つてゐましたから、それに就いては決して一言も申しませんでした。ところが或日彼が自分からその事を云ひ出して、初めてその發作の起きる時の樣子を話しましたから、二人は非常に驚きました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼は牢屋を出てから殖民として西伯利亞の或處へ住まつてゐました。その時分は怖ろしく孤獨に苦んだもので、幾月と云ふ間何一つ生物を見ないでゐる時さへありました。ある日――復活祭の宵でありました――思ひがけなく一人の昔友達が訪ねて參りました。二人は久しぶりに逢つた嬉しさに、その尊いお祭りの事などは忘れて、夜通し起きてゐて文學から哲學、終には宗教の事まで果てもなく話しました。訪ねて來たお友達は無神論者で、ドストエフスキイは信者でありましたから、どちらも自分が正しいのだと論證して行きました。

『神樣は其處へゐらつしやる。其處へゐらつしやる。』ドストエフスキイはとうと熱心の餘り我を忘れて叫びました。

その瞬間に寺院の鐘が朝のお務めを知らせて鳴りました。空氣はその壯嚴な調子に連れて震えました。『すると私は。』とドストエフスキイは云ひ續けました。『天が地上に下りて來て、私を運んで行つたような氣がしたのです。「神樣は其處へゐらつしやる。」と叫ぶと共に、私は正氣を失つたのです。』

『あなた方のような健康な人達は、その發作の起きる前の瞬間に私共の感ずるような天福を、迚も想像は出來ません。』と彼は申しました。『マホメットはコーランの中に自分は天

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

國に居つたと云つてゐます。恐人や分らず屋は彼を噓つきだとか詐欺師だとか呼びます。決してそうぢやない。マホメットは噓は云ひません。彼は私のような癲癇に苦んでゐましたからね。その發作の起きてる間に本統に天國にゐたのです。

『私は此天福が何秒續くか、何時間續くか、それとも何ヶ月續くかは話せませんが、どんな幸福な生活を呉れたつてそれと取り更へこはしないだなうと信じてゐます。』

ドストエフスキイはこのおしまひの言葉を異樣な小聲で申しました。姉妹はその言葉の魔法じみた力に魅せられるような氣がしました。突然二人とも、彼は今發作を起すのぢやないか知らと思ひました。

彼の顏は引き吊つて、口のまわりには皺が出來てゐました。

ドストエフスキイは姉妹の考へてゐる事を察しましたので、突然言葉を切つて微笑みました。『心配しなくもいゝんです。』と彼は申しました。

『發作の起きる時にはいつも前以つて分るんですから。』

若い姉妹は却つてどきまぎして、自分たちの思つてる事を見拔かれたのを恥しく思ひました。而して何と返事していゝか一寸と分りませんでした。間もなくドストエフスキイは歸つて行きましたが、後になつて、その次きの晩に發作を起したと云ふ話をいたしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エレナ・パウロヴナとドストエフスキイは大層お友達になつて、彼女が都を立つ前にする事になつてゐた盛んな告別會には、彼を說き勸めてとう〳〵招待を受けさせた程でありました。

不幸な事には此宴會はすつかり失敗になりました。ドストエフスキイの列席したのが大間違ひだつたのでありました。彼はこの盛んな色んな人のごた〳〵した社交界を、不斷より一層いやな氣がいたしました。いつもこんな場合の例として、彼はぶしつけで、不愉快でありました。彼はその晚ずつとアニウタを一人占めにしようとしましたところが、エレナ・パウロヴナが呼び立てゝ他のお客樣の所へやつたので大層腹を立てました。全くのところドストエフスキイは眞面目に戀をしてゐたのでありました。而して居合はす紳士のうちに、一人の若い士官が、アニウタを頻りとちやほやして、彼を嫉妬さしたのでありました。その晚ぢゆう色んな不快な場面(シーン)が起りました。ドストエフスキイは激しい癇癪を起して、その夜會を誹りながら、世間的の利益のために娘を賣る親達に就いて、露骨に諷示をしました。

この夜會の後は、ドストエフスキイとアニウタの關係はすつかり違ひました。彼は氣短くて、一克になつて、嫉妬を起しては彼女を苦しめました。アニウタももう以前のように

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼を崇め立てなくて、却つて意地めるのを面白がつてゐるやうな風でありました。

近づきになりたてにはアニウタはドストエフスキイの來さうな日には、他の樂しみは皆んな悅んで打捨てました。而して彼が部屋にゐる間附きつきりにしてゐたのであります。今はこれがすつかり變つて仕舞ひました。他のお客樣の居るところへ彼が來ても、アニウタは矢張り平氣に他の人達のお相手をしてゐました。ドストエフスキイが來る事になつてゐる日に何か招待でも受けますと、手紙で彼を斷はりました。

こんな時には彼は屹度その明けの日に出掛けて來て、非道くいら〳〵してゐました。アニウタはわざと不機嫌なのを氣がつかぬ風にして何か仕事をしてゐます。

これが尙ほど彼をいら立たせました。彼は一言も物も云はず隅つこに坐つてゐます。

『昨日は何處へ行らしたのです。』

と彼はとうと激した調子できり出します。

『舞踏會』とアニウタは答へます。

『踊つたのですか。』

『そりや踊りましたわ。』

『從兄さんと？』

『従兄ども他の人達とも踊りましたわ。』
『あなたはそんな事が面白いんですか。』
　アニウタは肩を聳かします。
『なぜ面白がつてはいけないんでせう。』
と答へて、又仕事にかゝります。
『あなたは輕佻な、思慮のない人形だ。』
と彼はとうと叫びます。
　二人はいつもこんな風で話をしてゐました。けれどもこの二人の關係が餘り張り詰め過ぎたやうになるに從つて、ドストエフスキイとターニヤとの友情はだん〳〵熱して來ました。勿論彼女の盲目的な嘆美が彼に媚びたのであります。彼はよくターニヤを例に引きました。
　アニウタがわざと彼のパラドックスが分らない風をしてゐますさ、フエオドール・ミカエロヴィッチは怒り立つて斯う叫びます。
『あなたの心は淺薄で偏狹だ。御妹さんを御覽なさい。あの人は私をよく分る。あの人は深い、敏感な心を持つてゐますよ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こんな時にはターニャは嬉しくつてまつ赤になりました。而して自分の身を切り裂いてでもどんなにかよく彼の事を了解してるかを見せ度いと思ひました。

全くのところ聞くも不思議な程ターニヤはドストエフスキイを了解いたしました。彼女にはその暖い優しい思ひがよく分りました。彼女が彼を尊敬しのたは、たゞ天才のためばかりではなくて、彼が色んな苦難をしたからでありました。彼の獨創が彼女を魅入らして、その想像力を豊富にしたのでありました。

もしドストエフスキイがこの若い心を見る事が出來たら、自分は斯うまで思はれてゐるのだと分つて、深く感動したでありませう。

ターニヤはその心の底では、ドストエフスキイが初めほどアニウタに打ち欲まつてゐないらしいのが非常に嬉しく思はれました。でも斯んな思ひをするのは罪かなんぞのやうに恥しい氣もいたしました。

フェオドール・ミカエロヴィッチはターニヤを小さいお友達と呼んでゐました。而してターニヤの容貌を非道く褒め立てゝ、お姉さんをおとしめる事さへありました。

『あなたは御自分をいゝ器量だと思つてる。』と彼は申します。『私は保證します。お妹さんの方が今にあなたよりずつと綺麗になりますよ。あの人の顔は非常に表情的で、きつす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐのジプシイの眼を持つてゐます。あなたは――どうでせう。愉快な小さい獨逸形の顔付をしてる丈けぢやありませんか。』

アニウタは輕蔑したやうに微笑しました。でもターニャは自分の美しさの法外な讃美を熱心に呑み込みました。

彼女はお姉さんがこの事をどう思つてゐるか知ら、又本統に自分はいつかいゝ器量になれるのか知ら、それが分り度いと思ひました。それ故その晩二人して臥せりかけた時になり丈け何氣ない風をしながら申しました。

『フェオドール・ミカエロヴィッチは今日妙な事を云つたわねえ。』

『何のこと。』とアニウタは尋ねました。彼女はその話をすつかり忘れてゐたのでありました。

『ほら。ジプシイの眼の事と、私をいゝ器量だと云つた事よ。』ターニャはまつ赤になりながら申しました。

アニウタはその優美な頸をふり向けて、惡ごすさうな目つきをしてターニャを眺めました。

『フェオドール・ミカエロヴィッチが、お前を私よりいゝ器量だと思つてると思つて。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と彼女は尋ねました。

アニウタの青い目の中の妙な神秘的な微笑と、美しく垂れてゐる髪毛は、彼女を人魚かなんぞのやうに見えさせました。ターニャは寢臺の向にある大きな姿見に、お姉さんと並んでゐる自分の小さなうす暗い姿を見ました。斯うして比べたところでは、迚も自分の姿に滿足してるとは云はれませんでした。それでもお姉さんの冷淡なうぬ惚れた調子が癪に障りましたので、少し腹を立てゝ申しました。――

『でも好きずきだわ。』

『全くね、好きていふものは時に依ると妙なものだからね。』アニウタに靜かに斯う云つて矢張り髪を解かしてゐました。

二人はランプを消しました。でもターニャはなほ同じ事ばかり思ひ續けてゐました。

『そんな事があられやうか。』と彼女は獨り言ちました。『フェオドール・セルゲゼエヴィッチには本統に私がお姉さんよりかもいゝ器量だと思へるのか知ら。』

彼女はお祈禱にこんな言葉を云ひ添へました。

『神樣。世界ぢゆうにアニウタを讃めさやさして下さいまし。でもフェオドール・ミカチロヴィッチだけには私の方が器量よしだと思はせて下さいまし。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれどもある烈しい失望が哀れなターニャを待ち受けてゐました。

ドストエフスキイはターニャに頻りと音樂を糟けて勉强するようにと云つて勸めました。ターニャはちつとも音樂的ではなかつたのでしたが、毎日のきまつたお稽古で幾つか彈いてゐたものですから、手も馴れてはゐますし、音譜もよく分りました。いつかドストエフスキイのために一曲彈いた事がありました――露西亞の小唄の變調子でありました――この曲は取りわけ彼を悅ばせました。と云ふのはドストエフスキイが丁度音樂を聞き度いやうな氣分になつてゐたからでありました。それですつかり熱中して仕舞つて、ターニャの樂才を大げさに褒め立てました。勿論ターニャはこれで又新らたにやり初める氣になつたのでありました。彼女は一流の先生に敎はつて、暇のある度にピヤノで過ごしました。ドストエフスキイの好きな曲だと云つてゐた Sonate pathéique を稽古して喫驚させやうとしてゐたのでありました。

それは中々六つかしくありましたが、それでも暫くするとターニャは見事に覺え込みました。而していつかその技倆を示めす機會のあるのを待つてゐました。

ある日、ラゼフスキィ家の人々が都を立つ事になつてゐた少し前の頃でありました。お母樣や伯母さん達は晩餐會へ出かけましたので、二人の姉妹丈けゐました。その晩にドス

トエフスキイが參りました。少し臆病らしく、變つた風に見えましたが、其頃よくあつたようにいら／＼してはゐませんでした。

ターニャはさぞ悦んでその好きな曲を聽いて呉れうるだらうと思ひましたので、坐つて彈き初めました。一心に見事に彈かうと計りしてゐましたから、直ぐと自分の音樂に氣を取られて仕舞つて、他の事は何もかも忘れてゐました。とうとう彈き了りました。そして全くよく出來たと思つて、その人のためにこそこんな苦心をしたのでありますから、ドストエフスキイに又讃めそやされるのを待つてゐました。けれどもあたりは森と靜まり返つてゐました。ターニャは見廻しました――部屋は空つぽでありました。

彼女はがつかりしました。ふとぼんやりした疑ひが起りました。次ぎの間へ行つて見ました。――誰もゐませんでした。とうとう彼女は小さい角部屋まで來ました。而して他の部屋との仕切になつてゐる帷をあげました。――すると何が目に入つたでせう。アニウタとドストエフスキィとが一緒に寢椅子に座つてゐるところでありました。部屋がうす暗くなつてゐますので、アニウタの顏はランプの蔭で隱されてゐましたが、ドストエフスキィの顏ははつきり分りました。――青白い亢奮した顏をしてゐました。彼はアニウタの手を取つて、彼女の方へ身をこゞめてゐました。情に熱した小聲で話し入つてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『アンナさん、あなたは私が初めてあなたを見た瞬間からあなたを愛したのが分らないんですか。否や、まだ逢はないうち、あなたの手紙を見た時から愛したのです。私はあなたを愛します。友達としてぢやありません。――決してそうぢやない。烈しく、私の胸一杯で愛するのです。――』

さてターニャは何んとしたでせう。彼女は氣絶せんばかりでありました。淋しく堪らぬやうな悲しい思ひになりました。彼女は非道く踏み付けられた氣がしました。凡ての血が心臟に突き入つてそれから頭へ走りました。

彼女は帷を落してその部屋を駈け出しました。急いだはづみに椅子を引つくり返しました。

お姉さんはハッとして立ち上りました。

『お前だつたの、ターニャ』と彼女は申しました。でもターニャは返事もしなければ、立ち止まりもせず、そのまゝ家のもーッの端になつてゐる自分の部屋へ着きました。着物をかなぐり捨てゝ、寢床へ倒れると枕に顔を埋めました。

彼女はもう胸が一杯でありました。今まではドストエフスキィをどう思つてゐたのかよく分らなかつたし、彼を戀してゐた事も心底から自分自身にも知つてゐなかつたのであり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ましたが、この怖ろしい時に限つた悲痛と屈辱と羞恥の思ひは、云ひやうもない程でありました。

おしまひにはお姉さんが來て呉れゝばいゝのにと思ひ初めました。

『あの人達は私には取り合つても呉れないんだわ。私が死にかけたつて取り合つては呉れないんだ。あゝ、死ん了ひ度い。』泣くより外には悲しみのやり場がありませんでした。迚も眠れるどころではありませんでした。とうとターニャは門の鈴が鳴つて、戸外に急ぎ足の音を聞きました。貴婦人達が歸つて來たのでありました。人々の話聲も聞えました。別を告げてゐるドストエフスキィの聲は殊に耳につきました。廣間の戸が閉められて仕舞ふと、アニウタの足音が廊下傳ひに近づいて來ました。

ターニャは顏の上に落ちて來るランプの灯に堪えられませんでしたし、またアニウタの幸福をまともに見てはゐられませんでしたから、寢返りを打つて眠つたふりをしてゐました。

アニウタは彼女の側へ來ました。『眠つてやしないのだらうね。』と申しました。返事がだらうねありません。

『怒つてるんなら仕方がないわ。——そんな事をしてちや詰らなくつてよ。ぢや何んにも聞

き度くないのね。』アニウタは斯う云つて、何事もなかつたかのように寢て了ひました。

明けの、はターニャはみじめな氣がしてゐました。而してアニウタは何を話し度いのだらうとそればかりを心待ちにしてゐました。何んにも尋ねては見ませんでしたが、それでも胸の中にはお姉さんに對して敵意を感じてゐました。アニウタが起きてから抱かうとしますと、ターニャはむら〳〵として亂暴に突きのけました。これが又アニウタを怒らせました。彼女は打つちやつておいて、ターニャの好きなやうに悲しませて置きました。

ターニャはドストエフスキィの來る時の瞬間を怖れてゐました。而して絶えず心待ちにして待つてゐましたが、彼は決して來ませんでした。人々は晩餐に着きました。――ドストエフスキィは見えません。

その晩はある演奏會がありした。『勿論アニウタは家に殘るだらう。あの人が來るだろう。そして二人つきりで居るのだ。』ターニャの胸は妬ましさにずき〳〵しました。でもそうではありませんでした。アニウタは皆んなとその演奏會へ行つて絶えず上機嫌でゐました。

その晩二人の姉妹が臥せらうとしてゐた時ターニャはもう自分を制する事が出來ませんでした。お姉さんの方をば見ないまゝで斯う申しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『フェオドール・ミカエロヴィッチはいつ來るの。』

アニウタはほゝ笑みました。『お前は何んにも知りたがらないのだもの。私とは話をし度くないのねえ。怒つてるのね』

その聲が如何にも親切で優しかつたものですから、ターニャは直ぐと心が解けて、アニウタに對する愛が歸つて來ました。

彼女はお姉さんの寢臺へ這ひ上つて、お姉さんに取り縋りました。而して聲をあげて泣き出しました。アニウタはその頭をなせてやりました。

『此のちび馬鹿さん。』と申しました。『お人よしのちびさん。』アニウタは優しく何度も斯う繰り返しました。おしまひには堪らなくなつて大きな聲を出して笑ひました。

『まあそんなこと聞いた事もないわ。お前つたら自分よりか三倍も年寄つた人に戀するんだもの。』

そんな言葉や、この笑ひ聲は、ターニャに烈しい希望を呼び覺ましました。

『ぢやお前さんはあの人を愛してやしないの。』彼女は思ひ入つて息もせず、小さい聲でこう尋ねました。

アニウタは暫くの間ぢつと考へてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大切にされるに違ひないもの。

手兒奈。それもさうね。

眞奈。可哀さうに私の兄もがつかりしてゐますよ。

手兒奈。縣主さまに見初められなければ、あたしはあなたの家の人になると思ふの。

眞奈。兄はさう思つてゐたのでせうよ。

手兒奈。みんなが各自(めいめい)にさう思ふのでせう。

眞奈。みんなつて？

手兒奈。眞奈の兄さんも、縣主さまも、それから私部(きさべ)の殿樣も。

眞奈。あなたは如何思つてゐるの。

手兒奈。私はどうも思つてゐない。だけれどもね、眞奈、今日は私部の殿樣がお通りにならなかつたわね。それとも私が氣がつかなかつたのかしら。でも、どんな時でもあの方の、馬の蹄の音を聞きそくなつたことはないのだけれど。

眞奈。乾度あの話をお聞きになつたので、思ひきつてお出にならなくなつたのかも知れないわ。

手兒奈。そんなことはないわ。縣主さまの夫人にされるつていふことは、私でさへ昨日聞いたばかりなのに、私部の殿樣がもうごぞんじの筈がない。それに私はまだ行くともどうとも定つてはしないのだから。

眞奈。あの方もお隣りの御領主さまなの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

情も出來るやうでありました。けれども心の底には斯う思ひました。『いつもあの人と一緒にゐて、何んでもあの人にしてあげるのはどんなに幸福だらう。アニウタは何故そんな幸福を拒めるのだらう。』

でも兎に角ターニヤはその晩は昨夜よりはずつと嬉しく眠りました。

出立の日も間近になりました。フェオドール・ミカエロヴィッチは今一度參りました。それが彼の最後の訪問でありました。長くもゐませんでしたが、アニウタに對する態度は親しげで自然でありました。二人はどちらからも手紙を書く約束をいたしました。

彼はターニヤをも大層可愛がつて接吻をして呉れました。けれども元より彼のためにターニヤがどんな苦しみをしたかと云ふ事は迚も思ひ及ばなかつたのでありました。

六ケ月經てからアニウタはドストエフスキイから手紙を貰ひました。それには彼が一人の珍らしい程な若い娘を見つけて、その人と戀に落ちて結婚の約束をしたと云ふ事が云つてありました。この若い娘が彼の二番目の妻なるアンナ・グリゴールゼコウナでありました。ドストエフスキイはその手紙の終りに卒直な調子で斯んな事を書き添へてありました『若し誰かゞ、六ケ月前に私があなたにあんな誓約をしたと話しても、私は迚も信じな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いでせう。』

　ターニャの傷はだん〳〵癒えました。歸路の旅は、全くその胸に荒れた暴雨風の最終の跡を消したのであります。

　二人の姉妹は過去の出來事は決して口に出しませんでした。二人の友情は直ぐにすつかり恢復しました。

　二人はパリビノへ、その靜かな單調な田舍生活へ歸りました。けれども二人とも頓て何か變化が來なければならない、大きな出來事が起りかけてゐるのだと云ふ氣がしてゐました。二人は未來を眺める眼を與へられてゐるのを知つてるやうでありました。而して何か知ら新らしい、異常な、重大な事が自分達の生活に起るだらうと云ふ事が確かめられたやうに思はれました。二人とも無限な、云ひやうもない程の希望に捕へられて來るべき年は自分達の驚くべき黄金の夢（ゴールデン　ドリーム）が悉く成就するかの如き氣になつてゐました。

――をはり――

まよひ——三ケ島葭

その後は君と別れしさびしさをおぼゆるほどに心なごます

さまよはんさまよへるまは暗き身の明日も忘れん今日も忘れん

憂ふべきことかあらずかそのいまだ知れがたきまにおどろきて痩す

やごとなく捨てられざるに過ぎぬ身の苦しさをもて君に安らふ

悶ゆるはいたづらなれど君思ふ身は運命にまかせがたかり

わが心淡きがゆゑによろこびのわくかと思ふ戀もせしかな

なほわれは君無き今日に病むことを身の幸ひと思ひてぞ泣く

おもしろさありてか我を笑ひてか知らねど人の笑へるはよし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かばかりに涙流るる暗き身となれるも我の弱さにぞよる
一人にもの言ひかねてあめつちを恨めば近きもろびと怒る
かなしくも傷つきにけり我れ生きて君を愛でえず頼みえぬまで
はしたなきわが噂にも耳立つるよるべなき身となりにけるかな
如何がしてわれは醒むべき悲しさをつれなさとするこのまよひより
まぼろしにむかへる我の今よりも強かりしかと涙流しぬ
あさましき我のまよひを知りてこそ君もまことに捨てて走らめ
ふと逢へば深き痛手も身を離れ涼風となる心地こそすれ
み心を忘るればうしそのうきがままにつぶやくあさましきわれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞實の光——岩淵百合

ただひとり尊きいのちいだきしめいたはりあれば輝く太陽
ただひとりあるをよろこぶこころより湧く涙こそきよく尊し
あかあかとわが太陽は輝けりきよきなみだに身を埋むとき
尊きはわが眞實にはぐまれし只ひとすじのさびしき生命
さびしさの生命いたはりありければこの眞實のこころ輝やく
たのむことあだとなりけりかかるとき黒きダリヤの咲きいでにけり
凡てわがたのめることの悔ゆる日に追はれ心地の悲しみぞ湧く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「性」について――上野葉

（離婚せる四十女の思ひ切つた告白を讀んで）

今から四五年前、丁抹の女流作者カリン、ミヒヤエリスの手によつて公にせられた「危險なる年齡」と題する小說が、昨年の春、小野秀雄氏が邦語に譯して「離婚せる四十女の思ひ切つた告白」と改題して出版せられてをる。此小說は忽ち歐洲諸國語に飜譯せられると同時に非常に社會の議論を沸騰せしめたそうである。なぜならば此小說の中に取扱はれてをる問題が離婚と云ふ大きな事件であつて、しかもそれが、分別盛の四十女が主人公になつてをるのと、今一つは、女性通有の弱點とか秘密とか云ふものを作者の主觀から割出して赤裸々に女性を裏切つたと云ふので、女流仲間で殊にやかましくなつた、或は肯定し、或は否定し、或は研究せられ、或は疑はれた。

此小說の主人公リンドネル夫人は、優れた美貌を以て貧しい家に生れたがために、幼い頃から、非常に富貴に憧憬れてゐた。某金持の郡長が五十を越えて妻を亡くしたのに望を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かけて、十六歳の少女は遂に此老翁と婚約を結ぶに至つたが、郡長が翻然として悟る所あつて、俄に破約して彼女を自由にすると共に彼の遺産を與へて巴里に遊學せしめた。其所で彼女は若い藝術家にめぐり合つて初戀をする。けれど彼女が經濟思想に長けてゐたがために其戀を發展せしめなかつた。其後リッヒアルトと云ふ金滿家と結婚した。けれども物質は、終局の滿足を與へるものではない。彼等二人は表面平和な家庭を造つてゐたけれど、其實全く性質の異つた二つの個性が互に理解し互に同趣味に生きやうと煩悶するに過ぎなかつた。そして相互の謙讓と沈默とによつて間斷なき慘劇を演じてゐた。小刀を扱ふことからハンケチの持ち方に至るまでこんな瑣末なことが夫人の感情を害してゐた。そして彼女には樂しかるべき日曜日が、一番苦痛なものだつた、なぜならば面白くないリッヒアルトが終日家に居るから。二十年の長年月の間に、彼等二人は染々と話し合つたことは一度もなかつた。たゞ夫に對する妻の道として忠實に仕へてはゐたけれど。彼女が三十三歳の時、自分より八つ年下のヨルゲンと云ふ工學士と相知つて以來、彼女の腦裡に、潜在意識のやうに、新しい美しい戀が刻まれた。ヨルゲンは此夫人を唯一の婦人として非常に痛切な憧憬を抱いて、彼女が四十三歳になつた今日に至るも猶、獨身生活を續けて全力を擧げて建築術に注いでをる、二人の戀は全く抑へ切れぬ、高いものに燃えてをる。僞ろ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うとして僞ることの出來ない、自ら欺かうとして欺くことの出來ない、幸福な憧憬の上に立つてゐた。夫に感ずる欠陥が、たまたまこの若人によつて補はれたとすれば夫人の心の躍るのも尤である。しかし彼女の因襲道德によつてリッヒアルトを愛し家庭を圓滿ならしめなければならぬと努力はしても、ヨルゲンを戀してをると云ふことは强いて思ふまいとつとめてをる。が四十歳にして子の無かつた夫人は、此年齡に於て經驗する精神的變動を感ずると共に、自覺に入つた。顧れば夫の家庭は決して夫人に取つて家庭ではなくて「生ける爭鬪の墓場」に過ぎない。何の交渉もない家に自ら欺いて自ら束縛してをることが、どても堪らない。今更の様に一切の羈絆を脱して寂寞の中に自由の身となつて、眞の家庭に棲で見度くなつて來た。四十二歳の夏、かの工學士に、離婚しようとしてをる自分の友達のためにと云つて―離婚するまではリッヒアルトに對して義務を負ふてをるからヨルゲンにはかくしてをつた―全くかけ離れた孤島の中に二人の理想によつて白別墅を建てゝ貰つて秘密なほゝ笑を洩し合つてゐた。其翌年愈夫リッヒアルトに離婚を請求した、理由としては極めて簡單な思想―たゞ寂寞に置かれたいと云ふに過ぎない。リッヒアルトは、そんな空想は到底長續のするものでないからと云つて止めるけれども聞き入れない、それでは試に一時別れて見よう、後悔した時には、復び返つて來いと約束して同意をする、且又其間は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

年金を送ると云つたけれど、夫人にはかの郡長から譲られた財産があるので、一人の生活には不自由はなからうと斷はる。或日、園遊會に知人を招待して、それとなく哀別の意を表して、突然姿をかくして了つた。夫人は氣の利いた小間使と、各國の料理の出來る炊婦と後に園丁一人を雇入れて、人氣のない別莊に引移つた。そこは一方は海で、一方は廣い廣い森である。眼に映るものは帆船、蒸汽船、聞えるものは鳥の音ばかりである。寢室は特に彼女の考案で、ねてゐて星の見える樣に、硝子の圓天井に造られてある。氣持のいゝ此家は、全く彼女の戀人の賜物である、夫人は出來るだけ理想に近い裝飾を施し、調度を配合して美しい氣分を味はうとした。そしてはじめて自分の自由な家庭だと感ずる。が來て見れば餘りに寂しい、泣き度い程寂しい。失策だつたかとも考へるけれど強ひてその考を否定して、ともかくも一年を經た。

島についてから彼女の女友達リリーとマグナとそして舊の夫リツヒアルトと戀人ヨルゲン、リリーの夫ローテ教授に宛てて送つた手紙の一二が小說中に出してある。ヨルゲンへの最初の手紙には、斯うなつた事件の眞相をお知らせすることを憚る意味と、春秋に富だ貴方の未來には無關係な態度をとると云ふ意味とをかいてやつた。それに對するヨルゲンからの厚い返書は、丁度捕鼠器の周圍に忍びよる鼠の樣に這ひよりつゝも猶幾日か其儘に大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

切な寶のやうに篋底に秘めて樂んでゐた。けれど遂に開封を恐れて燒棄てゝ了ふ。まだ自分を欺かうとしてをる。

リッヒヱルトに對しては決して後悔してゐないことや、早く若い後繼者を探し出す樣に祈つてをると云ふやうなことをかいた。なぜならば眞に彼女の自由を得るのは、リッヒアルトが他の女と結婚する日に在ると信じてゐるから。しかしそれはヨルゲンを豫想しての彼女の無意識的の强みに過ぎない。

彼女がいかにヨルゲンに執着してゐたかは、自分で自分の心を解剖してをるのでわかる。時にはヨルゲンが自動車に引かれて遽死すればいゝにと思つて見たり、若し彼が最う十年若いか、それとも自分が猶十年老けてゐれば彼を養子に貰つたかも知れぬと考へたり。『ヨルゲン、マルテ……此名をかくと何だか彼の身體に觸れる樣な感じがする、そして私は手を觸れたくて堪えてをる』

『……私はヨルゲンを偲つた、……唯の一夜でも……あゝ』

去年彼等は別れて了つた。それからヨルゲンは心のやるせなさに方々を漂浪して歩いて其居所さへも不明であつた。音信も絕えてゐた、島に來て一年程經つてから彼女に第二の手紙をかいた、それには思ひ切つて切ない戀を告白するけれどもたゞ憧れてをると云ふだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けで何うしやうと云ふのでは勿論ない。なぜならば年若い男の戀が決して續くものではない、今に捨てるに定つてをると云ふ位のことは見透してゐたから。むしろ自ら好んで寂寞の中に逃げたのである。たゞせめて今一度逢つて見度いと思立つて是非來訪して呉れと賴む。手紙の終に流石未練が殘つてゐたか、

『どうぞ私の處にゐて下さい――それともまた貴方が私を妻としてやらうとのお答が御座いましたら私は喜んで貴方に從ひます。昔の婦人が其夫に從順であつた樣に、極從順に喜んでお仕へ申ます。』

と自分で自分を否定しながら肯定してをる。

ヨルゲンは翌日の朝の汽車で來て晩に立つた。此久し振の會見は二人の間に何んなことを齎したであらうか。

二人の戀は今は最早月の光の樣にただ反射光線を放つてをるに過ぎなかつた。既に燃え盡して了つた冷い魂に徒に欺僞的に反射するに止まつてゐた。永遠にひゞきのないものになつてゐた。

――食卓に向ひ合つて座つたとき私共は死のベツトの周圍に立つた時の樣に默つた……そして萬事休して了つた。タイムがそうしたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女はわざ〳〵と敗北の新しい血を見て爨つとしてはゐられなくなつた。何處へ行つたらいゝだらうか!!

無意識的期待が破壞せられると同時に彼女の心の空虛がやる瀬なく襲つて來た。リツヒアルトの處へ！　彼女は心から後悔してリツヒアルトに約束を履行して貰ふために手紙をかいて再び其懷に返ろうとした。すると最早リツヒアルトは十九の娘と婚約したと云つて來た、然り、彼女は同じ年の同じ月に二人の男から求められて、そうして二人から侮辱せられたのである。彼女は折返しリツヒアルトに祝意を表すると共に、聊か皮肉を云つてやつた。そして彼女の財政の許す範圍に於て小間使をつれて世界漫遊の途に上つた。

日記と手紙とを配合して編上げた此小說は意味の解し難い個所が多くある。殊に夫人の心理を解剖するに至つて疑はしい、理解のしにくい點がないでもない、が私が數回繰りかへして翫味した處は大概こんなものであつた。

主人公リンドネル夫人は大した空想家でもなく內に向ふ女でもない。たゞ事件に對して何處か徹底した見解を下せる女である。夫人が屢言明してゐる所によると、女の四十前後は餘程心理狀態に於て危險性を帶ひてゐるらしい。そのことに關してはかつて淚香氏が評

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

論を公にしてをられたるが二十代の者には勿論想像がつかない。今此の夫人の離婚について考へて見ると、其動機とする所は、

夫人の結婚が人格に對する憧憬に出立してゐないこと、

夫に對して抱いてゐた空虚を充たすべき要素を他の異性に認めたこと、

子供のない同棲生活に飽きて動搖を夢見たこと、

勿論突然起つた兆ではない。以前からの思想であつたものが舊道德で自ら律してゐたのに過ぎない。それが其所謂、危險なる年齡に於てあゝした道に進ませたのである。

十七八の頃だつた、カーライルの英雄崇拜論を非常な歡喜と好奇心とを以て讀むだのは。吾々は先天的に憧憬の心を與へられてをる。自分よりも美しい、より偉大な、より高いものに向つて切なる思慕を捧げる熱情を持つてをる。憧憬の心ほど純粹なものは無い。憧憬の心ほど力强いものはない。たとへ富貴を夢見る人の心持にさへ抑へがたい僞のない至情に燃えてをる美しさがある。西行や芭蕉や、他處見をしないでたゞ一直線に進んで行く猪の樣に自然美に憧憬れて生涯を羈旅に讃美したではないか。巨人の胸に打たれたさに、吾々はあの重苦しい、聲なき懊惱の沈默に似た新綠の壓迫に憧憬れるのである。吾々の紛糺

した内的要求を遣ろうとして森にあこがれる。海にあこがれる。はてしもない大平原を夢み、寂しい茫冢たる曠野に佇んで見度い樣なやる瀬のない氣分に惱まされる。たゞ一途に、あゝ何と云ふ美しい心持だろう。否私たちにはもつともつと深い痛切な憧れがある。人格に憧憬れると云ふことである。人格の生つ粹なあるものに心を動かされた刹那、目に見えぬ偉大なあるものに打たれた刹那の無私なる惑溺の美しさ、やる瀬なさを經驗する時に、私たちは恍惚として死をも辭しない幸福を感ずるであろう。

人間は群棲してをる、共同生活をしてをる。間斷なき接觸は絕えず吾々の神靈の上に或賑かさを與へなければならない。或慰めと快さとを與へなければならぬ。けれども吾々の性情が、思想が、趣味が、好惡がそれぞれ異つてをるがために、同じ人間同志でありながら殆ど沒交涉の寂しさを感ぜしめられることは幾何もある。同性間に在つては兎に角として接觸し易く調和され易かるべき異性間に在つてさへ猶個性の投合と云ふことはむづかしいことである。若も私たちが、ある異性の深刻な思想に、熱烈な愛情に、眞劍な態度に對つて痛切な憧憬が捧げられたとしたならば、其所に僞のない、純潔な戀を感ずることが出來よう。切なる憧憬、錯誤のない情愛、それが喜でありそれが苦痛であり、其人格に接す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る時に其靈的放射に全く惑亂し血の躍るのを經驗する樣な異性と同棲するならば、其所にはじめて幸福な人生を見ることが出來る。

吾々の結婚生活の多くが果して斯かる憧憬に出立してをるであろうか。かかる憧れに燃えてをるだろうか。妻は夫の人格に、夫は妻の人格に。結婚の第一日から同棲生活の終りまで、彼等の多くは財産とか地位とか年齡とか外貌とかを標準として其人格に至つては全然富籤を抽くやうに偶然出會つて同棲を敢てしてをる。意氣が投合しなかつたり、趣味が合はなかつたり、思想の懸隔が甚しかつたりするために互に不滿を抱いて人生を悲觀せねばならなくなる者がいかに多いことだろう。僅に子供によつて家庭的慰安を得る位に過ぎないで殆ど路傍の人に等しい寂しさを感ずるものもあろう。下らない人たち、沒交渉の人達と一緒に棲むと云ふことは堪らない、つまらないことだのに况して事々に不快を感じ、事々に衝突するやうな場合何しに彼等は同棲するだろう。たゞ夫だからと云ふ因襲觀念によつて夫に對する行爲を眞似てをるに過ぎない。妻だと云ふことによつて家具の一つの樣に扱つてをるに過ぎぬ。機械的に繰りかへす抱擁の裏面に、恐しい空虚と僞とが潜んでをることを自覺したならば、如何にそれが苦痛であろうか。家庭の平和を維持せむがために憧憬のない僞の愛を注ぐことが自己に對していかに悲しいことだろう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女の夫が彼女を熱愛してをるに係らず、夫人が常に家庭を放棄し度い様な氣分に苦しめられながら、世間を憚り將來を考へるがために、斷然たる行爲に出でることが出來なかつた、自ら其虚榮心を罵り未來を嘲りつゝも猶荏苒日を空しうして反感から反感を辿りつゝ、僞の愛を注いでゐたのである。苦しい潔よからざる一種の詐欺を續けて來たのである。心にもないほゝ笑を以てリッヒアルトを誑かしてゐたのである。

偶ヨルゲンと邂逅によつて彼女の慊りない人生は始めて充實しかゝつて來た。純潔な、熱烈な戀を感じて始めて彼女は眞の幸福を味はふことが出來たのである。無形の慰安はヨルゲンに對する憧憬から流れ出でたのである。斯うして彼女は苦しい幸福の中に在つて殆ど十年を經過した。そして夫婦の間には子供がない。彼女は外貌も氣分も、年よりは遙に若かつた。心の動搖が次第に高潮に達すると最早彼女はリッヒアルトから自由の身となつて虚僞の苦痛、詐欺の罪惡から逃れなくては一刻も心の平安を保たれなくなつて來た。若しも此儘にしてゐたならば自分は到底ヨルゲンに走らなくてはゐられなくなるに相違ない。それは彼女の恐れる處なのである。なぜならば、ヨルゲンは彼女の夫としては餘りに若過ぎたから。結局一切を離脱して孤島に隱遁すると云ふことは彼女に取つて唯一の道だつたかも知れぬ。彼女は二つを失はないがために二つを放棄して了ふつもりだつた、若も彼女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が永遠に棄てることが出來たならば彼女の戀は永遠に彼女の心に生きてゐただろう、永遠に美しい二人の戀は彼女の貪慾な告白のために成行はむしろ反對の方向に進んで彼女は思ひがけなく二つから捨てられたのである。

「星が淋しく無數の群の中を宇宙に於ける自己の永遠の徑路に沿うて運行する如くに女性亦寂しき道を踏で人生を通つて行くのである。」

夫人が衷心人生の孤獨なることを悟つてゐたならば今更狼狽する筈はない。何うせ人間は孤りだから、むしろ沒交渉の群集に交はる悲哀から逃れたのだとしたならば今更リッヒアルドへ歸ろうとする筈はない、一方に失敗した反感が急に他の一つを意識させたとするならば月の光で星が見えなかつたと同じ類の盲たるを免れない。根底が餘りにわけもなく搖いで全く一時の氣紛れとしか受取れなくなつて了ふ、今一つは若も彼女がヨルゲンに對して絶對的憧憬を抱いてゐたならばたとへ彼が愛して呉れようが醒めやうが人格其ものに對する十年の戀がそう俄に變ずべきものではない。ヨルゲン其者が彼女の想像してゐた程たゞしいものでなかつたがために彼女をしてしかく速に冷却せしめたのかも知れぬ。戀には往々錯誤がある、錯誤で見た戀人は遂に悲哀に埋られねばならぬ運命を持つてをる。遠のいて見た時に虹であつたものが近よつて見れば何でもない霧であることを戀する人は忘れ

てはならぬ。今になつて再び男が慕はしく寂しくなつたと云ふことは或は人間に通有な弱點かも知れぬ――彼女の肉體はいまだ彼女の心ほど荒んではゐない。年の割合に生々しい血は抱擁なくてはゐられないことを自白してをる。その肉體を何處かへ持つて行かねばならなかつたのである。一度肉的享樂を經驗した者が戀愛と性慾とを別問題になし得ることを主張するのは或は眞理ではあるまいか。しかしながら兩者の一致せないのは結局不幸たるには相違ないが。とにかくリツヒアルトに今一歩夫人を導いてをくだけの何ものかがほしかつた、でなければ一ッそ夫人が今一歩早く因襲道德の手から脱して眞の生活に入るべきだつた。彼女の選ぶべき異性は一人には限つてゐない。

相互の憧憬に出立して戀となり同棲とならなければ無駄であるとしたならば人間は結婚と云ふことについて愼重な態度を取らねばならぬ。青春の動き易い情緖に誤られて怒な出來心、氣紛れを以て戀人を定めてはならぬ。極端なる直情に驅られる前に極端な冷靜を以て自己の個性と對手の個性とを熱に見極めなければならぬ。徹頭徹尾好きだ――と云ふ對象を見付け出すまではむしろ獨身生活をするとも吾々の直情を胸の奥深くに秘めてをかねばならぬ。しかしそんな對象はザラに有るものではない。滅多に出會ふものではない。古

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人は知己のためには生命をも捧げたものである。生涯にたつた一人にめぐり合へばそれでいゝ。

世の父母たちは若しも娘たちが婚期に臨んでこんな主張をしたならばいかに顰蹙することだろう。そして媒介人の取計に一任してともかくも花婿の手に送り屆けられる。門出の敎訓は斯うである。

嫁すると云ふことは女の家に歸ると云ふことである。一度我家にかへつた上は再び生家の閾を跨いてはならぬ。

それで琵琶相和せば結構である。好奇心のベールを脫した時に無智、無理解、無趣味な對象がさらけ出されたならば男はそれを何うするだろうか。女はそれを何うするだろうか。我國の現狀を見渡した時に妻が夫の脚下に其人格を蹂躪せられてをるのみか、一種の權利でゞもあるかの樣に內に其妻を虐待して外に紅燈の巷に耽溺してをる男が幾何あることだろう！　妻によつて充すことの出來ない或ものが若も他に求めることが出來るとしたならば暫く其行爲を是認するとして、さらば其妻の要求をも容れてをるだろうか。國家的思想を表はしてをる法律は明にこれを否定してをる。自尊心の眼覺めてをる現代の女は果

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

してそれに甘ずるであらうか。世の父母たちは之を何う解決しやうとするのか。人格を殺しても貞操と云ふ虚名の方が重大なのであらうか。自他を僞つてもパンの問題の方がより重大なのであらうか。若も虚名のため、パンのために愛なき憧憬なき男の家に棲むと云ふならばそは立派な詐欺である、賣笑婦である。なぜ旗幟を鮮明にするを以て潔しとはしないか!? 徒に悲しみ徒に煩悶したつてそれが何になることか。眞理に行かうとする現代の女はむしろ孤獨生活を潔とするだけの勇氣がなければならぬ。離婚の悲運に堪へ得るだけの覺悟がなければならぬ。こんな場合に第一に跌づくのは生活問題である。所有のない限り自活するだけの自營の道を知つてゐなければ到底吾々は心にもない賣笑婦となつて屈從せなければならぬ。

近來の眼覺めたる青年男女の間にはむしろ此離婚と云ふことが多くなつて來てをる。でなければ夫の不品行に惱むでをる女、共鳴する女を求めて寂しがつてをる男の聲が頻にきこゑて來る。舊道德の權威は將に地に落ち様として未だ所道德が現はれない。

憧憬に出立した結婚が幸福であることは云ふまでもないが、神經過敏な複雜な現代人を

満足させる様な要素なり秘密なりを持つてをる人は尠い。これを不完全な一人によつて充そうとする時に悲觀、煩悶が起つて來る。足らはない一人に屬いて置かうとする時に嫉妬懊惱に苦しめられる。匹夫匹婦も其心を奪ふことは出來ない。形式に於て服從させることは出來ても、其靈を服することはむづかしい。形式に於て妻たり夫たるものも其靈に至つて之を何うすることも出來やしない。たとへそれが一部の憧憬に出立したとするも到底慊なさは免れられぬ。從て其所に何等かの工夫努力を要する。

リンドネル夫人は其夫リッヒアルトに肉の自由を許して其心を捧げることが出來なかつた。靈と肉とは一致しないものだらうか。私はかつて肉體はすべての場合、靈のシンボルでなければならぬ。肉の結合は靈の結合の後にのみ來るものと信じてゐた。そして男がたゞ單に性慾を充さむがために走るのを不思議に考へてゐた。戀愛と性慾とは女性には斷じて獨立し得ないものと決め込んでゐた。ところが今に至つて其愚の至だつたことを知つた。見ずや舊い結婚法によつてをる男女の群は、これ皆單なる肉の結合を以て出立してをることを。世は滔々として肉に走つてをる。花柳界の女を見よ。彼等は平然として肉を解放してをる。けれど其魂に至つては好漢と雖も容易に之を左右することは出來ないではないか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

肉體は之を自由に束縛する事が出來るけれど靈を縛ることは斷じて出來ぬ。彼等は彼等の周圍に躍りまはつてをる美しいものに勝手に其眸を轉じて行く。到底一つ所に繋いてをくことは出來やしない。肉の眸は自分を見詰めてをるけれど心の眸は疾つくに彼方を向いて了つてをる。肉の頭は自分の前に下げられてをるけれど靈の頭は反り返つて笑つてをる。これを詐欺だと云はゞ一番ふさはしい名である。貪婪な吾々の眼は何かしら絕えず凝視させる樣なものを探してをる。皿の樣に大きく見張つて。なぜならば吾々には先天的に憧憬の心、崇拜の心を與へられてをるから。いつまでも爆發力が地の底にグルグルと煮え返つて噴火口を探してをるのである。生理的充實がいかに容易であつて靈的充實がいかに困難であることよ！　靈に饑ゑてゐたリンドネル夫人が、ヨルゲンを注視したからとて不思議はない。ローテ敎授に答へたリンドネル夫人の手紙によると、リリーと云ふ女は五人の子供の母親としてローテ敎授の妻として殆ど理想的に稱贊されてゐた四十女である。そして夫の著作を理解するために羅甸語を學び解剖の講演をきゝに行つたりした女である。それが數年前から大學總長シユレーゲルの何ものかに憧憬てローテに對して慊りなく感じてゐたすべてを充されてゐた。――シユンーゲルはそんなことゝは夢にも知らなかつた――或時シユレーゲルが不慮の負傷をしたのをきいてリリーは其看護のために傍に侍し度いと其

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ままを夫に賴んだ。ローテは妻の心持を理解すゐことが出來なくて不貞呼なりをする。リリーは實際其夫を非常に愛すると同時にシユレーゲルを愛したのである。二人の異つた性質が相合してリリーを滿足させたのである。けれどローテは心の苦痛よりも損はれた虛榮心の方が大きかつた。一時に二人を愛し得ることを否定したからである。そこでリリーは自己の立場を明にするために娘二人を引受つてローテから去つて了つた。大きな犧牲を拂つたのである。けれどリリーは飽くまで二人を愛して行つた。こんなことは何も珍しいことではない。靈の絕對自由を何うすることが出來やうぞ。肉の解放は靈の解放ではない。肉の束縛は靈の束縛にはならぬ。肉の貞操は靈の貞操の保證にはならぬ。靈と肉との一致は或はバージンの夢に過ぎないかも知れぬ。囚はれない靈を抱いて自由な道を獨り步いてをる人間ほど神々しいものはない。それが未婚者であろうと既婚者であらうと。

靈的憧憬が自由だとしたならば、そして肉的價値を認めないとしたならば貞操と云ふものゝ標準を何處に置くか。キリスト敎徒は如何にして心の姦淫を制して行くだろうか。現代は貞不貞を論ずる時ではない。離婚を恐れる時ではない。むしろ今一步新しい眞理を見付け出さねばならない機運に向つてをる。愚痴をこぼすよりもむしろ善後策を講じなけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばならぬ。

破れた琴は最早張り代へるより外はない。けれど何うせ異つた個性と個性との接觸であつて見れば全然投合する様なことは無いものと假定しなければならぬ。其所に努力が必要である。一方に憧憬をそゝるべく人格を醇化して行くと共に趣味眼を開くことに怠つてはならぬ。どんな人格に對しても趣味を持つことが出來たならば少くも不快から免れることが出來る、倦怠から逃れることが出來る。毛嫌は自分で自分の世界を狹くするのである。趣味の偏してをるのは現代人の性癖ではあるまいか。そして無闇に寂しがる。無闇に反撥したがる。それが宿痾とならねば幸である。今一歩、性的關係に於て寬容な度量を養はねばならぬ。馬車馬でない限、誰だつて側見もするだろうではないか。趣味眼が開ければ開らける程、色々なものに眼が止まるのは尤である。殊に子供の無い夫婦などはわけて此感が深かろうと思はれる。眞理に勇む人達は思切つて洒落な心持で多くを愛し多くを愛せしむることを是認しては何うだろう。是認するだけの度量を男も女も公平に養ふ方が今後の人達には必要ではなかろうか。リンドネル夫人にしでもこれだけの度量があつたら、强ち島に遁れなくても離婚を敢てせなくても充分に其寂寥を慰めることが出來たろう。氣の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

咎めることもなくて。

吾々の道徳律も自然の經路に從つて幾分の新趣味を加へることがむしろ眞理ではあるまいか。貞操なんて強ひなくとも、努めなくとも抑へがたなき憧憬が生み出すのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛の自由――エレン・ケイ

女子が種族の爲めに生活し、そして苦しむ必然の要求として、彼女の戀愛は男子に比して一層純潔なる熱と、高き焔と、深き意志と、疲れざる貞節とを有する。性態に對する充されざる慾求は戀人に對する常に温かき自己犧牲の情愛の中に釋放せられる。然るに男子は漸次與ふる機會を逸すると同時に、その愛が減じて行く。女子がこれを發見する時、彼女は自分の與へたものを回想し始める。そしてその時、鬪爭、罪惡、悲哀、並にその報酬――死――が恐らく初めに純粹の戀愛であつたものに入り込んだ、その戀愛は若しそれが共通する偉なる目的の統合純化の影響を有してゐたなら、充分美しい生活を持つたかも知れないのである。

戀愛がこの種の何物をも所有しない時、その運動力はそれ自身に向けられる。兩方の感情がその時パアフイラー(parfiler)のそれの如き遊戲の目的になる、それは十八世紀に流行したもので擦り切れた金の切れから糸を引き出すものであつた。さま／＼な感情が裂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かれたり、破られたり、結び着けられたり、こんがらかされたり、ほごされたりする。然し感情は根であつて、糸ではない――金糸ですらない。戀愛の創造力が、藝術のそれの如く、その生長の爲めの生産的地面を發見するのは生の偉大健全なる現實中にである。この地面から切放されて、戀愛は、藝術と同樣、春の暴風雨に吹き倒された樹のやうである。それは實際今春葉を着けるかも知れない――たとへその根がスッカリ空氣に曝されても――けれどそれは夏を持ち越すことは出來ないであらう。

この點に於て、秘密な戀愛は子供なく又たは共通の趣好なき上流階級の結婚の如くである。

勿論自から犧牲となつて、自活する情人は習俗的な虛僞に滿ちた妻に比して遙か上に位してゐる。

かくして『その原因を偶然皮相に有する性的戀愛は容易に憎惡に轉じられ、不調に培養せらるる一種の狂氣に變ずる傾向がある、然し、それに反して、その原因を靈性の自由と子孫を生み育てる意志とに有する戀愛は永續的である』――進化論によつて一層深くせられたることのスピノザの甚深なる思想の意義を理解することを靑年に敎ふるのは抽象的な義務の觀念ではなく、眞に道德的なる眞の利己的觀念でなければならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生の宗教及びその無數の影響、並に殆んど見分けがたき次第の變化を通じて、戀愛の自由は漸次永續的戀愛に對する自由を意味するやうになるであらう。

時代の精神は、文學及び輿論の標準を通じて働らき、さま〲の思想並に感情をあやまたず變化し、最强者がかれ等を導く方向に進み行く。

これ等の强者たるべき者は現代の青年でなければならない。

生の多方面の增進に對する慾望の成長につれて、親子の關係がまたこの增進に對する一層重大な條件になるであらう。青年は最早好んで未熟な性的生活によつて、薄弱不健全なる子供を世の中に送り出して父母たるかれ等の喜びを減殺し、かれ等の個性の成長に獻げらるべき期間の價値を輕視することを欲しないであらう。何故ならかれ等はすべての幸福を十分自由に所有せんことを欲するからである。期待せられた子供がその兩親に與へなければならないのは苦痛不安ではなく、美しき夢でなければならない。子供は兩親の喜こぶ腕に抱かれ、そして幸福に充ちた生活に與からなければならない。

此處でも何處でも、個人にとつて最も純なそして永續的な幸福はまた種族を道德的に增大することである。

二人の戀人がこの欲求を有し、成熟の域に達した時、そして意志が實現の權利を有し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かれ等自身、新時代、並に社會の健康と美に十分一致する時、たとへ共同生活並に共稼ぎに對するかれ等の純な慾求が結婚の形式をとる迄進んでゐないとしても、かれ等は十分一緒に生活する權利を有してゐる。

聽くべき耳を有する人にとつて、次の數字が十分の説明を與へるであらう、その數字の示すところによれば、不法結合の平均年齡は自然が結婚の爲め指定した正しい年齡である。かくして一九〇〇年度に於ける瑞典の統計の示すところによると六千三百四十名の『私生』兒が二十歳乃至二十五歳の母から生れてゐる、そして二十歳以下の母から生れた子供は二千〇二十八名で、二十五歳乃至三十歳の母から生れた子供は三千八百五十七名であつた。徵兵强制勵行の以前に於てすら、移住者の最高數は男女を通じて二十歳前後の未婚者間に多いと云ふことはまた見逃すべからざる事實である。

自由結婚の爲め、種族は屢々生活に適すべき子供等を失ふことがある、かれ等はその養育せらるる不利なる境遇によつて淪落せしめられる、そして一國の最善なる血液は移住によつて枯れ盡してしまふ。そしてそれには種々なる原因の影響があるとしても、多少考へのある人はそれ等の中に正しき時に結婚するの困難なることを算入せずには置くまい。また結婚に不都合である一般社會狀態及び經濟的狀態の直接の比例として賣淫が增加する、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして結婚が容易である時にそれが減少する。そして賣淫婦の大多數は——未婚の母の如く——適當な結婚年齡に達してゐる。かくの如きは統計的證明によつて十分明らかにせられてゐる事實である。

然し乍ら上流階級の青年は現狀に對するかれらの鬪爭に於て、下層階級の無責任に墮してはならない。敎育ある青年はかれ等の結婚を適當なる時期に於て行ふばかりでなく、種族と社會の要求に關して非難すべからざる方法を取り、他の人々に對して模範的な例を示さなければならない。青年は——かれ等の同時代人の如く——家庭を建設する責任を擅にするべき完全な權利を有してゐる、然しそれは子供の期待が無い間はかれ等に拒まれるかも知れない。併しながらかれ等がこの種の反抗に對する權利を有するのは、かれ等自身が進んで、出來る丈早く、いつかかれ等の位置を占めるべき新らしき子供の爲めに準備する時に於てのみ許さるべきである。併し兎に角、敎育ある青年は社會改革に參加しなければならない、それは——廣く云へば——結婚問題の唯一の解決であるであらう。

從來屢々亂用せられ、また種々に解釋せられる『自由戀愛』を辨護する代りに、我々は戀愛の自由の爲めに努力しなければならない。何故なら前者は如何なる種類の戀愛の自由をも含んでゐるに反し、後者は眞に戀愛なる名稱に價する感情の自由にのみに限られなけれ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばならないからである。

この感情はそれが既に詩歌中に有する同一の自由を人生に於ても次第に得んとしつゝある、それは我々のまた希望するところである。戀愛の蕾も花もその時愛人の間の秘密であつて、その結果のみがかれ等と社會の間の事柄となるであらう。詩歌は既にその發展の課程を指示した。大詩人にして正式結婚の幸福を歌つた者は稀れである、それに反してかれ等は屢々自由にして密かなる戀愛を歌つた。そしてこの點に於てまた詩歌に對する道德の標準と、人生に對する道德の標準とを差別せざるが如き時代が來りつゝある。サクンタラの詩人すら充實せる情感によつてのみ聖別せらるる『ガンドアルヴ(Gandoarva)結婚』に於て自由にそれ自からを與へる戀愛こそ最も美しいものであると呼んでゐる。併しその時でさへ危險が

……知られざる心に對して閉ずる、知られざる心に關して認められた。その時でさへ社會に對する責任を戀愛の自由に結び付けた子供の運命に關する不安があつた。

かくして新らしき道德的自覺は舊い物である。併し乍らその自覺はそれにも拘らず新らしきものと呼ばれなければならない、何故ならそれは將に行き渡らんとする當初に於てあるから。或る一人の男若しくは女が――その結婚せると自由戀愛なるとに拘らず――精神

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に於てまつたく沒交渉なる他人に自己を與へることによつて自己の尊嚴を瀆すものである
と云ふことが次第に多くの人に明らかになつて來た。そして次第に直覺的に感ぜられつつ
あるのは他の靈魂中のホームの觀念が熱愛を神聖ならしむると云ふことである。

盛裝せる求婚者が先づ娘の父の許に行き、彼女に對する彼のおもわくを打ち明けるごと
きは既に舊式にして、過去の滑稽に屬してゐる。華燭の典の如きはやがて滑稽なるものと
見做れる時が來るであらう、初めは不都合として、そして遂には不道德なるものとして。
そして――結婚が家族の事件であつた時代の他の遺物の如く――それは既に戀愛發展と同
程度に於て消え初めた。戀人等はかれ等の最も微妙なる感情を窺ふことを次第に許さなく
なつて來た。かれ等は努めてこれ等の感情を社會や、家族や、友人等の立入つた指先から
救はんとしてゐる。戀愛は漸次自然の神秘の一部分として尊敬せられるやうになつて來
た。その進路を如何なる傍人も判定することは出來ない、その敏感なる表現、及び不定の
可能性を何人も妨げ得ないかも知れない、その神秘の圈內に於ては一定の時間表も何等の
役に立たないであらう。

人生に於ける偉大なる君主の一つなる戀愛は如何にして死が爲し得るが如く社會の手よ
りその自由を奪ふことが出來るか？『愛と死とは分水嶺の二側面の如く出會し、その最高

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

點はやがてかれ等の相會する處である』(G. Bodenbach)。一つは暗の翼を有し、他は夜天の翼を有する愛と死とはこの世の生命及びそれを圍む二個の偉なる暗黒の間の入口を護ふてゐる――その威嚴に於て比較し得べきはただこれ等の二個の力のみである。

併しながら死はただ一つなるに反し、愛には種々なるものがある。死は決して戯むれない。すべての戀愛が等しく眞摯になる時、それはまたそれ自身の時を擇ぶべき死の權利を所有するであらう。

* * * * * *

戀愛の青春に於て、兩親がかれ等の子供等にとつて意義のあるのはかれ等がその面前に於て完成せらるる驚異に對して尊敬を感ずる時のみである。併しながらかれ等の子供等が完全なる友人としてかれ等を待遇する程兩親が前以つて賢明であると云ふことは極めて稀れである。青年時代は通常鬪爭に滿ちてゐる、それは半ば兩親がかれ等自身の觀念に從つてかれ等の子供を作らんとするの慾望から――それに對して子供等は今敢へてかれ等自身を防禦せんとしつつある――また半ば子供等がかれ等自身の理想を肯定せんとする慾望によつてである、かれ等の理想とするところは常に兩親のそれと異つてゐる、然らずんば『新

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

時代の人々は存在の理由を有さないであらう』(G. Brandes)。兩親は若しかれ等が當初より子供等を目するにまつたく新らしき神々と新らしき目的とを有する新人として意義あるものなることを理解したなら、かれ等自身並にかれ等の子供等の爲めに無限の苦痛を除き得たかも知れない。乃ち子供等がかれ等自身の性格を保護すべき權能を有し、新らしき道を發見するの義務を有し、かれ等の兩親が子供等に尊敬せらるる權利を保持すると同程度に於て自己の現在及び過去の最善なるもの、並に自己の慾求するものによつてかれ等の兩親に尊敬せらるる權利を失ふことがないならばである。兩親が成長せる子供等に對して決して棄ててはならない唯一の權利はかれ等自身の經驗の賜物を子供等に與ふることである。併しさうしたからと云つて、かれ等はかわいい子供が最も容易なるものを忘れ、かれ等自身の最も苦がき經驗さへ時に子供をして自から悲しき發見を爲すことから救ふことが出來ない場合があるものだと云ふことを心得てゐなければならない。子供等は恐らくかれ等の兩親の過失を除き得るかも知れないが、同時にそれがかれ等自身の過失となるかも知れないのである！　父若しくは母が子供の運命の上に有する眞に唯一の力は――實際これが偉大な力なのである――父若しくは母の強く美しき人格を以て家庭を充たすに愛と喜びと、勞働と修養とを以つてし、かくして家庭の雰圍氣を豐富純潔ならしめ、子供等をして靜かに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かれ等の撰擇に任し、高き標準に向はしむるにある。

併し若し兩親がこれにも關らずかれ等の子供等が誘惑せられて運命と出來事とを混同するのを見るなら、その時兩親はその危險を避けしむる爲め殆んど神の如き智慧を示すべきである。大低の場合に於て、兩親は意識的に或は無意識的に偶然事の手助けをしてゐるに反し、一方では預定せられてゐるものに對して邪魔をしてゐる。かれ等の警告は靜かにして與ふるべき何物をも有せざるものに對しては向けられない、否な、かれ等は青年が自己の性格中の最善なるものを以つて反對する卑劣なるさま〴〵の理由をさへ陳述する。かくして青年はかれ等自身の不安なる直覺を沈默せしめる、若し兩親にして根本的(エッセンシャル)なものに對する明らかな洞察力を有してゐたならば、かれ等をしてその直覺に從つて行爲せしむることが出來たかも知れない。

最も多く愛情ある家庭に於てすら、子供等は、かれ等の青春の暴風雨期に於ては、謎の如く兩親がかれ等を解釋せんとする努力も屢々徒勞に終るのである。青年は恐らく自己の謎を解決せんとする間に於けるが如く苦痛をなむる時は恐らくあるまい。併し乍ら自己の子供等を通じて若返ることに成効した父母のみがただその解決を助けることが出來るであらう。然らざればその結果は兩親が子供等の高く〳〵築きつつある壁の傍に石を運搬する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に止まるのみである。

兩親にして未だ意地惡き機械とならず、また自己の權威を亂用せず、家庭に在つては子供等をして自由そのものの喜びをすら享樂せしむるの場合に於てさへ、屢々かれ等の優越性を子供等の爲めに役立て、或はかれ等の博大なる精神によつて青年の偏見より免かれしむる努力に缺けることがある。かくの如き場合に於てかれ等はその努力を拋棄しなければならない、何故ならそれはただに現在の困難を改善することが出來ない許りでなく、理解に對する將來の機會をも破壞する恐れがあるからである。

人生に於ける三つの最大決心を爲すに當つて――乃ち、根本的人生觀、一生の仕事、戀愛に對する決心――人は自己の靈魂を相談相手にしなければならない。これ等の事柄に關しては、兩親はかれ等の子供等を生命がけの危險から救ふ爲めにかれ等の權威を制限しなければならない、併し勿論兩親はその場合かくの如き危險を發見し、かれ等の深遠なる要求と皮相なるそれを區別し、本道とわき道とを區別する能力がなければならない。若し兩親にしてかくの如き能力を有せざる場合には、子供等は早晩かれ等自身の道を求め、かれ等自身並に人生に對するかれ等の義務を行はなければならない。

若し、同一の場合に於ける若夫婦の如く、子供等が一方かれ等の行爲の上に誠實を現は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すと同時に『微笑し、沈默する』ことが出來れば、その時かれ等は恐らくかれ等の兩親を敎育することが出來るであらう。その場合に於て、屢々明らかなのは、その試煉の爲され た以前に子供若しくは兩親が信じたよりも父母の心が强く、その靈魂が偉大であつたと云ふことである。それに反して若し兩親の過失及び偏見が鬪爭の唯一の原因であつたと云ふことが證明された時には、それ等の過失及び偏見はそれが父母のであるからと云ふので別段尊敬を拂ふ理由はない。

併したとへ兩親が深い感情を抱き得る靈魂を有せず、憐憫の心情のみを有する場合に於てすら――それ自身並に過去未來の時代に對する子供の義務は戀愛によつてそれ自身の性質に出來得る丈最高の完成を與へることである。兩親は種族の無限の鎖の中の一連環に過ぎない。兩親がかれ等の子供等に移植するそれは數千萬の血液である、子供は今かれ等の兩親に代つてそれを次の時代に引渡さなければならない。子供等はかれ等の父母に對するよりも既にこの世を去つた人々及びこれから生れて來る人等に對して一層高い義務を有してゐる譯である。靑年はかれ等自身の發展及びかれ等の血液の中に出來る丈けかれ等の祖先を生かさなければならない。人間はその無智なる父若しくは狹量なる母に對するよりもその祖母の心若しくは祖父の想像力に對して、より大なる感謝の負債を負ふてゐるものと云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて差支へないかも知れない。兩親を喜ばすことは必ずしもその子供の義務ではない。時に子供は自己の繼續者に喜びを與ふる爲め、やむなく兩親に悲ししみを與ふる義務を感ずる場合があるかも知れないのである。勿論自己の父母を尊敬することはよいことである、併しながら未だ生れざる以前に於てすら自己の息子及び娘を尊敬すべしと云ふかのモーゼが失念した命令は更に重大である。

祖先及び子孫の知覺が人間情緒の一勢力として人間行動の意識的動機になつた時、かれ等の子供等の生涯を決定する兩親の要求は――かれ等の兩親のそれを決すべき後者の要求と等しく――次第に過去及び未來の莊嚴の前に微塵にせられるであらう。

* * * * * *

以上より見た結果として如何なる道德教義も二十代若しくは三十代の健康なる人々に對して結婚の方法を準備せしむる必要を含まないものは無價値である。

次第に增加し行く困難なる試驗、政府の各省に於ける給料の割合、商業上の利益の配當及び一般の生活程度が青年結婚機會の邪魔をしてゐる間は、いつまでもかくの如き狀態に止まるべく、それと同時に、自己の人格及び戀愛の爲めに、獨身生活を送り結婚するまで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

節制を維持する人々が次第に少なくなつて行くのである。

現今の社會狀態並に文明に對して拂はるべきかくの如き犧牲を除去することは勿論個人にとつて充分必要なるのみならず、社會にとつて遙かに重要である、社會の諸勢力は今不道德の效果によつて浪費せられ、道德のそれによつて防止せられてゐる、社會の力は新時代に對して責任ある若き健全なる兩親の上に懸つてゐる。

實際狀態の下に在つてすら、靑年に對する結婚の機會は、地方に於ける『自分の家庭』と云ふ思想の賢明なる實現により、大學課程の短縮により、俸給價格の增加により、(現在に於ては娼婦によつて性的要求を滿足にせしめんとする標準によつて俸給を定めたるが如く思はれる) 恩給をより早き年齡に於て與へることによつて、(さうすれば兒童敎育の荷が最も重い中年時代に俸給が比較的高くなる譯である) 或は家族を扶養する男女を免稅すること等によつて增加せられるかも知れない。

のみならず、社會的口實、慣習の根本的改造が必要である、殊に大都會に於て、共同臺所を有する小房建築を受負ふ建築會社、時間定めで家政手傳人を供給する事務所、日用必需品を廉價に供給する共同組合等が著しく靑年等の家庭建設を助けるかも知れない處では一層それが必要である。併しただにこればかりではなく、若し二十五歲の人々が各自の職

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に就くとして――三十五年間國家に服務した後――年金を受ける資格を有すると同時に退職の義務があるとすれば――勿論例外として或る特種の技量を有する人が首要な位置に欠くべからざるものとして殘る場合はあるが――公職規定も亦改善せられなければならない。一人の得た經驗並に彼に殘された力は他の公私の事件に充分の力を發揮するであらう。

道德革新家等がかれ等の確心を向けなければならないのは不德文學ではなく大藏省、豫算案委員、個人としての雇主等に對してでなければならない。實業家が一年に二三百萬圓の純益を得るに比して、彼の下に働らく人々はこの中の二三を除くの外、殆んど三十歲以前に結婚に就て考へることさへもなし得ない程の薄給に甘んじてゐなければならず、一省局の大臣が結婚を容易ならしむる爲めの條件を以つて增俸を請願する官吏の一階級に答へるに、より屢々町に行くことの寬大なる許可を與ふることを以てし、(娼婦に接近することを意味す――譯者）雇主が女雇人の增俸に對する要求を拒むに彼女の容貌を利用して彼女の收入を增加するの容易なることを親切らしくほのめかす間は結婚問題も無解決に止まるであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

凡そ青年に對する道德的說法にして同時に不德に味方し、若き戀愛の實現を不可能にする社會狀態を非難せざるものは愚劣以上にして、一種の罪惡と見做すべきである。現在に於けるが如き賃銀の低廉と不安なる職務狀態の繼續する間は、男子の血液は愈々益々腐敗し行き、女子のそれは結婚を期待してゐる間貧弱にせられるであらう、若し彼女が早く結婚し得たなら、それによつて社會は健全幸福なる兩親より生れたる立派なる子供等を與へられたかも知れないのである。社會がかくの如く徒にその最高の價値を犧牲にしてゐる間は、その他の社會改革もかの晝間に爲されたる仕事を夜が破壞し去るペネロープの仕事に過ぎないであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

暗中より——齋賀 琴

ゆくところわがゆく處さびしさのはつる國なし死やは追ひ來る
ゆるやかに空に這ひゆく一すぢのけむりを見つゝこゝろいためり
こし方のたのしかりしもうかりしもあゝ何事も君にかかはる
ほのぐらく我の行手に横はるものけふもみゆけふもまたみゆ
過ぎし日の悲しかりける思ひ出にくしきえにしを語らひもせむ
おとろへて死を待つのみとたよりするかなしき我をあざけりてみる
絶望のきはみにもゆる一抹のうすき煙か火の山にたつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かにかくにくしきえにしのはてぞとてけふの我身をあきらめて見ぬ

さびしとてさびしとてなほうたをよむはかなきことに我うたをよむ

山行けど野行けどさびしさびしさに死ぬべき旅と思ひ定むれ

いかならむくしき運命にあざむかれはかなく死をば願ひけるにか

み心の趣くまゝにしたまはゞ命じたまはゞ遺憾なからむ

潔く死を肯ひて別れたるその夜の我ぞいとしかりけれ

おほごかに許し給ふはあきたらず鞭ちたまへ鞭ちたまへ

人かひの手にとらはれてふるさとに賣られし夢ぞまことなれかし

こまやかに君とありける朝夕の忘れがたきぞ未練と云ふや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

森田草平氏に――らいてう

『「炮烙の刑について青鞜記者にあたふ」を讀んで』

私が「青鞜」六月號で田村俊子さんの御作「炮烙の刑」の女主人公「龍子」を評しました時、筆端はしなくも、草平氏が「讀賣」紙上で同じ作品に御加へになつて批評に及びました。それはかういふことでございました。（あまり長くもありませんし、筆者が誰かといふことを暫くなり御忘れ下さつて、今一度氏に讀んで頂きたいと思ひますから左に再び記すことにいたしました）

「屢次と共に女（筆者註、龍子一人を指す）に對する理解を欠いてゐる森田草平氏は女が自分の行爲を罪惡でないと男の前に言ひ張つた一事をもつて直にモラルセンスの缺乏と取られたものらしい。そして墮落すればする程一方でモラル、センスが鋭くならねばならぬといふやうな意味のことを言つてゐられたが、Nさん（筆者註、野上彌生子さん）は草平氏の評を見て、モラルセンスを缺いた男が他人の作品をモラルセンスを缺く故をもつて非難したのはおかしいと言つて笑はれたけれど、私はそれとは別な意味で、隨分理解のない、皮相な外面的な見方だと思つた。氏のいふ處の道德とはどういふものをさすのだらう。龍子に向けた非難から考へるとそれは――たとへ斷り書はあつたにしても矢張りたゞ因襲的な外面道德らしい。私は龍子が他の男を愛したから墮落したものだとは云はない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それよりも非難に價する重大なことはもつと根本的な處にあると思ふ。それは龍子が自分の行爲に對する明かな自覺をもたなかつたことだ。龍子は他の男を愛したことをたゞ自分のいたづらとした。そして慶治に對して飽く迄も反抗しながら一方では「一人に心を惹かれながら一人にも心を殘してゐたといふ事は一人を欺き、一人を弄んだ事になつた。それが私の心を責める。私は何方に對しても惡いことをした。さうして私は自分のいたづらを惱んだ」などゝいふやうな無自覺な、不徹底な價値なき煩悶以上に出られなかつた（筆者曰、もつと價値ある、內的な苦悶、葛藤があるべき筈だと思つたからです。煩悶や動搖そのものを非難したのではありません。）ところに寧ろ龍子の自己に對する大きな罪惡があると思ふ。

彼女にはまだ眞の自我が確立しない。だから衝動に根がない。衝動か自我から出て自我にかへらない。だから底力がない。あてにならない。彼女の罪惡はそこにある。自覺的でないことである。自覺なきものの（自覺なるものとなつてゐたのは誤植です）行動は相手の態度一つで忽ちに激變する。龍子の動亂はいかに烈しかつたにせよ。彼女の自我が確立してゐない以上それは彼女の生活に何の足跡もとゞめないであらう。」

（此處に氏が「讀賣」に御書きになつた評も並べて掲載するといふのですが、殘念ながら手許にありませんから出來ません。序ながら申して置きますが、實はあれを書いた時も新聞を持ち合せなかつたのです。で、私は特に注意して「かく／＼云はれた」と書かないで「かく／＼いふやうな意味のこと云々」と御斷りいたしておいたのです。其他今見るとおかしい位、斷定的な言葉をさけて、「だらう」とか「らしい」とか手加減の多い言い方をしてゐますのもその爲めでした。けれどそれぱかりではありません。今一つ氏自身も仰有る通り、あの御批評は可成りぞんざいなもので、龍子に就いて、どういふ風に、又どの位の程度迄御考へになつて見た上での御言葉だかその邊が少しも現

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れてゐませんでしたから、私は不識の間に、氏がこれ迄御書きになつたものなどからの推量によつて判斷するやうになつたからだらうと思ひます。「氏の謂ふところの道德とはどういふものをさすのだらう」などゝいふ質問も氏がよく云はれる道德とか倫理とかいふことの内容を日頃から疑つてゐたので自然それがあすこに出たのだらうと思ひます)。

ところが氏は「反響」七月號誌上で、私の此の批評を、「氏に對する一種のプレヂユディスから導かれた、甚しい誤解だ」として色々不徹底な意味に於ての御辯護やら御説明がありました。

私は一讀して隨分意外な感じがいたしました。

何處に、私のあの評の中に氏の云はれるやうな「甚しい誤解」の箇所がありましてせう。根本的な誤解などは一つもないやうに私には思はれます。否、却て氏の今回の長い御説明によつて、益々私の前言の正しかつたことを確め得た點も多い位なのでございます。あゝいふ立場から、あゝいふ非難を加へる者は私の外にないかも知れません。けれどそれをもつて「自分の評言に加へられた非難とは思はれない」などと仰有るのは甚だ妙なことだと思ひます。若し眞にさう御感じになつたものとすれば、私のいふところがほんとには御分りにならなかつたのだと申すより外ございません。殊に氏に對するプレヂユディス云々に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

至つては私は笑はずにゐられませんでした。わるい意味であまりに女性的に過敏な、御觀察ではないでせうか。かうまでになりますと、何だか馬鹿々々しい氣もいたしました。けれど私はそれがいかにも氏らしいのを感ぜずにはゐられませんでした。そして私に對してあんなに迄、昔の女にともするとあつたやうなすねた、ひがんだ、甚だ曲り氣の多い、邪な、不純な感情を差しはさんでゐられるのかと思ふと、あまりいゝ氣持はいたしませんでした。そして私はあれを書いた時の私の心持とあれを御讀みになつた時の氏の御心持との間には個人的感情に於てあまりに隔たりのあるのを今更驚かずにはゐられませんでした。(なぜ、私があそこで氏の批評について一言するやうになつたかは後にN氏云々のことを說明いたします處で御分りになる筈です。)

それにも拘はらず、氏はなぜあんな風に御感じになつたのでせう、あんな風にとらずにはゐられなかつたのでせう、私はこの問題の方が寧ろ人の心の働き方を考へる上に、興味あることだと思ひました。そして私は色々なことを考へさせられました。

氏は「出來ることなら自分に對する一種のプレヂユディスも解いて貰ひたい。プレヂユディスは他人の言葉を誤解させる。加之、女史自からの文品をも傷ける。」と仰有いました。甚だ失禮に聞えるかも知れませんが、私にはどうもそれがそのまゝそつくりひつくり返して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氏自身に對して仰有らねばならぬ筈のことだつたやうに思はれてならないのです。自分自身の上に感じてゐることを、そして自分自身に對して云はねばならぬことを相手の上になげつけて自から安んじやうとする傾向は人間にありがちな寧ろ愛嬌ある弱點で別段あやしむにも足りませんけれど。私に對して何程そんな御要求をなさらうと氏が今の如き氏である限り不可能だといふこと丈は御承知いたゞきたいと存じます。何故なら氏自身に屬することが多いのですから。それは氏に對する私のプレヂユディスの證據として御自身で御擧げになつたことを見るとすぐ分ります。氏は頭から「慶治と共に女を理解せざる森田草平氏云々」と私が書いたと云つて咎めて入らつしやいますが。或はその女といふのを龍子ととらずして一般の女を概括した抽象的な「女」の意味に直に御受取りになつたのではないでせうか。(これは伺つて見なければ分りませんか)もしさうだとすれば御思ひ違ひでございます。私は龍子のことを女、女と他の箇所でも澤山書きました通り、此處でも龍子一人をさしたればこそ慶治と共に云々の言葉も生きてゐるです。きいてゐるのです。いふ迄もないことですが、私は慶治が龍子以外の女を理解する人だか、しない人だか、又氏が龍子以外の女を理解するかしないかそんなことはこゝで知らうとも思ひませんでした。そんな問題などはは必要のないことなのでしたから。只必要なのは慶治も龍子を理解しなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして氏も亦龍子を理解しなかつたといふことなのです。

氏が龍子を理解しなかつたといふことは氏のあの評言を讀んで私が感じたところの眞實でありますからさう書くより仕方がありませんでした。殊にあの文面に現れた處丈で判斷すれば、氏は殆ど慶治の側に立つて、女に對しては慶治と相去ること遠くない思想から、只辯解がなつてゐないとか、我儘だとか、倫理的意識が欠けてゐるとか云はれたものとしか受取れないのが當然だと思ひます。それをそのまゝさうだと書くに何の差支がありませう。私は出來る丈緊約せられた文章を常に好んで居ります。で、慶治と共に女を理解せざる森田草平氏云々といふやうな表現の仕方をいたしたのです、私にとつてはあれが自然な表現の仕方なのですから。

次に更に笑ふべきはNさん（野上彌生子さんのことだといふのは前にも一言註を入れて御斷りいたして置いた通りです。私達の仲間ではNさんといへば同氏のことだといふのは分つてゐると思ひましたし同氏には無論御自分のことだといふのは分つてゐるのですから、あの場合、特に氏の御文名を記す必要もないやうに思つたのでした。併しかうなつては同氏も御迷惑でせうし、私も行きがゝり上言はねばならぬことになつて來ましたから申すのです。）のことに就いて出來るッ丈陋劣な邪推をめぐらして、甚だけしからぬ（といふのは私

がNさんといふ人でもつれて來て、その人に自分の都合上氏に對する侮言を弄せしめたといふやうな）嫌疑やいはれのない叱責の御言葉を發せられたことでございます。最も自分の痛い處に觸れられた時、人は最も怖れ且憤るものなのでせうか。

私は氏の邪推、曲解のいかに甚だしいかを明にするために、何故私があそこで野上彌生子さんの御言葉を思ひ出したかといふ、ことの順序を簡單に御報告いたしませう。さすれば無用な御懸念がすぐ解けることゝ信じますから。

丁度氏の評が出た日の「讀賣」には、私の食物に關する最も深い印象とかいふ題で書かされた六號の小文がのつて居りました。其日の夕方でしたか、野上さんから葉書が參りました。それは何でも俳人一茶に關する何かの繪はがきで、文面には、私が書いたその小文を讀んで思はずふき出したと云ふことゝ、草平といふ人は漱石山房ではモラルセンスのない人だと云ふことになつてゐるのに、その人が他人の作品をモラルセンスを缺く故をもつて非難したのはおかしいといふ意味（その葉書をもうなくして仕舞いましたから意味だけしか申上げられません。けれど日常の談話にでも英語をよく用ゐられる野上さんがモラルセンスといふ言葉をこの時お使ひになつてあつたのはたしかでした。）のことゝが書いてあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りました。私は漱石先生にはまだお目にかゝつたこともない位のものですから、漱石山房で氏に對してさういふ定評？ありや否や、その眞僞のほどを確める譯には參りませんが、漱石山房といへば、氏の友人―氏を最も理解してゐるべき筈の人達の集られる處だと思ひますし、野上さんの御良人もその中の一人でゐらつしやいますから、そこに多少の相違はよしあつたとしても、全く根のないことだとは信じられません、且、野上さんからは日頃から、（直接に、又は御隣同志の社の野枝さんを通じて間接に）漱石門下の方々のことは折々伺つてゐるのですから、何も物好きに氏に對してばかり根もないことを揑造される筈もあるまいと思ひます。殊に私の知つてゐる野上さんはそんな婦人ではないと私は信じて居ります。かう申せば何か氏御自身に於ても思ひ當られるやうなことはありませんでせうか。私は氏がひどく御咎めになつたことがその實漱石山房から來たことだといふのを（眞僞は前申した通り存じませんか）何だか面白く思ひます。「N氏とやらをしてあゝいふ侮言を弄せしめしは何の意ぞ。他人に對してモラル、センスがないなどゝいふのは、人を畜生呼ばはりするに均しい（これについての私の考へはモラル、センスといふことについて述べます處で申上げる筈ですが、モラルセンスがないといふことが直に畜生だといふことでせうか。――筆者）斯る漫罵を何等の理由なしに又必要なしに、（理由なしにではありません、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

必要なしにではありません。野上さんからあの御葉書を頂かなければ私は書く氣にならなかつたかも知れません。寧ろ野上さんのあの感想から導き出されたもので、草平氏を御相手にしたのではなく、野上さんを前に置いて云つてゐたのです。何故なら私は野上さんの御葉書に對する御答へとして私があれを讀んだ時の感想を野上さん迄申上げたいとその前から思つてゐたからです、それが機會を得て自然とあすこに出たのです。――筆者）發するのは少くとも其輕卒を咎めなければ成らぬ。N氏の輕卒は暫くこれを咎めずとも、らいてう女史が漫然それを公表されたのは如何いふつもりで有らう。(漫然公表したのでないことはもう御分りでせう、が、念の爲めに「公表」といふことに就いて少し申し上げておきます。世間や因習道徳をひどく氣にしてゐる人、そしてどんなことでも公にさへならない間はいゝやうな氣でゐられる人――よくある手合ですが――にとつて公表されるといふことは重大なことかも知れませんけれど、私達――社の同人――は少くともそんなことを打破したところから出立してゐますから、別に何とも思つて居りません。そんなことに囚はれて眞實を公言しえないものを寧ろ不德なものと思はぬ迄も、憐れなものと思つてゐる位です。それから今一つ私達の思想や主張は只今のところでは世間から殆ど理解されない、受け容れられないところから自然となつたのかも知れませんが、私達はいつかしら世間の人を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

御相手にせずに、多くの場合自分自身のために書くか、さもなければ自分の仲間の人達を相手にして書くやうになつて居ます。尤も世間の人を相手にしても筆をとる場合も少しはありますが、たとへば只今のやうな場合もその一つです——。筆者）我等の道德觀よりすれば、同じ事でも自分に言ふなら、まだしも、他人に言はせてそれを默過するのは一層好くないことになつてゐるのである。（我等といふ以上は氏と氏以外の人も加はるのでしやうか、一體どんな人達なのでせう、或は世間といふ意味なのでせうか、どんな道德觀だか伺ひたいものです。漱石山房云々の斷り書きを附さなかつたことは一般讀者を相手にするものとしたなら手落ちだつたかも知れませんけれど、他人が云つたことを、他人が云つたと書くといふことは、他人が云つたことを自分が云つたとして書くよりも一層よくない道德がどこの世界に存在するのでせう。いつの時代に存在したのでせう。私のやうな頭のものには理解を越えた御話です。甚だくどく申すやうですが、私がもしあの場合漱石山房での定評（？）や、野上さんのあの御感想に對する評でもいたすのが目的でしたなら、私自身のそれに對する意見も發表いたしたでございませう。けれどそんなことは、あの場合は全く不必要なことだつたのです。正直に申せば私は野上さんから伺ひました時、何だか「さもあらう」といふやうな氣がいたしたのでした。けれど私は野上さんとは違つて自分に元來缺

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

乏してゐるから、それを他の人や作者にお求めになるので別にをかしなことではないといふやうな解し方をいたしたのでした。――筆者）

隨分思慮のない、無法な言葉だつたと、少しは御自身に御氣付きになりませう。

『自分は龍子の行爲に對しても、それ程「理解のない、皮相な外面的な見方をしてゐるつもりもなければ、又自分の道德が因襲的外面的道德だ」と斷ぜられるおぼえもない。』と折角辨解されたすぐそのあとの御筆で、よくも御自身を立派に裏切るやうなことを平氣で仰有いましたね。氏としてこれ程の大きな寧ろ愛嬌ある矛盾にお身氣付きにならない筈はありますまいが、これも何かに血迷はゝれた故でもありませうか。私に對してお加へになつた「御言葉」こそ、氏がいかに私をも「理解のない、皮相なる外面的な（しかも不純な）見方をしてゐられるか、又氏の道德がいかに因襲的な、外面的道德だ」かを不用意の間に自から證據立てられたものでありませう。それは草平氏といふ方が、人間としてその根本に於ては因襲的な方だからのことで、實際のことにぶつかるとすぐその眞面目が現れるのではないでせうか。「此場合、自分の道德が內的道德でないことは故ら斷るまでもなからう」とわざ〳〵斷り書を附せられたのは思ふに氏もいくらか氣が咎められたのでありませう。

大分長たらしくなりましたが、以上は氏に對する一種のプレヂユデイスから導かれてゐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る云々の御言葉に對して、事實をそのまゝに御報告して、御答へといたした次第です。
次に、私は氏が「甚しい誤解」だとして擧げられたことが果してさうであるか、どうかを考へて見たいと思ひます。
まづ第一に言はねばならぬことはモラルスセンスといふ言葉についてございます。私が何故モラルセンスといふ言葉を使つたか、それはもう前に申上げたことで、ほゞ御分りかと存じまいが、野上さんの御葉書から來てゐるのです、何故なら私には氏の御批評よりも野上さんの御感想の方が後に頭にはいつたものですし、今自分に比較的近しい人でもあり、且野上さんを御相手にして書いてゐたのでしたから、その時の私の頭の中には、「論理的意識」といふ言葉よりも「モラルセンス」といふ言葉の方がより鮮かな度に於て現はれてゐたのでした。で、私の筆端から何氣もなくその方の言葉が先に迸り出て仕舞つた迄です。その背けれど、モラルセンスと倫理的意識とは全く同じ言葉だといふ觀念が何より先に、後にあつたからのことなのは申す迄もありません。(且、新聞を讀みました時はまだ「焙烙の刑」の評をかく氣にもなつてゐませんでしたので、讀み捨てにして仕舞ひましたから、あれを書くときは前にも申した通り手許にはなかつたのです。それも一つの原因かも知れません、不用意と申せば申されませうが。)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ところで氏が御使ひになつた倫理的意識といふ言葉と私が使つたモラルセンスといふ言葉との間にはどれ丈の差異點があるでせうか。

氏は、私の誤解の根據をこの二つの言葉を混同した處にあるとし、甚だ曖昧な、苦しさうな、差別を御述べになつて、(これはあとで説明します。)ゐらつしやいますが、氏の甚しいと迄云はれる誤解をこの點に歸さうとするのはあまりに根據の薄弱なのを思はずにはゐられません。

氏は「女史が故意に此の二つを間違へられたとも思はないが、斯う甚しく成ると、(私は何もさう甚しい間違ひとは思ひませんが――筆者)何だか言ひがゝりをされてでもゐるやうな氣もするので有る」と云はれましたが、若し今、私が氏のやうな邪推深い判斷を下したがる人であつて、氏こそ私がたま〳〵前述のやうな事情から用語を間違へたことを良い言ひがゝりにして、強いてプレチユテイスから導かれた誤解云々を造り上げやうとした跡があるとでも申したらどうでせう。

今、私は此處でこの二つの言葉の字面に拘泥しやうとは思ひますん。又、哲學的に詮議しやうとも思ひません、只此處で是非とも、必要なのは、此二つの言葉の中に氏と私とがどういふ内容を盛つてゐるかといふことを調べて見ることです、それからふたりがこれら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の言葉の中に盛つた內容の間の差異を明にするといふことです。これさへちやんと極めてかゝれば問題の解決は極めて容易だと私は思ひます。

私は野上さんの云はれたモラルセンスといふ言葉を別に考へる迄もなく、只ほんの通俗的な意味にとりました。ですからこのモラルは相對的な、第二義的な世間の所謂道德、別の言葉で申せば「因襲的な外面道德（小乘の道德と申しても差支ありますまい。）を指したので、モラルセンスといへばかういふ道德に對する感性を意味するもので普通良心とか道德心とかいふものと同一なものとして使つたのでございます。從つてモラルセンスを欠くといふのはどういふことだかは改めて申す迄もございますまい。序でながら、此處でモラルセンスを欠くといふことが、私達の立場からはどういふことになるかを少し申上げて置かうかと存じます。私達はもうこんな道德は他から、くつ付けられたかりもので自分自身の價値あるものとも思つて居ないばかりが、却て自分達の眞の成長進步を妨げたものだと思つて居ます。そしてかういふものをまだ全然打破し得ない迄も打破することに常に努めて居ります。――何故ならより以上のもの、絕對自己の上に立てられた內面的道德（第一義の道德）を有つてゐるからでございます。少くともさういふ道德を要求し、その權威を內に感じてゐるからでございます。かういふ意味からいへば私達も所謂モラルセンスなどは

有つて居ないのでせう。けれど私達は決して畜生ではありません。もと〳〵そんなものの價値を重じてゐないのですから、他人からさう云はれたかつて別に侮言を弄されたなど〻怒りもいたしません。怒るものはモラルセンス以上の何ものも自己の中に有つてゐないからでせう、又少くとも有つことを欲求してゐないからでせう。重ねて申しますが、こんなことによつても氏は明に「理解のない皮相な外面的な見方」をする方だといふことを、と同時に氏の所謂道德なるものはいかに「因襲的な外面的なものだ」かを氏自身御示しになつたのを私は殘念に思ひます。

なほ此處に變なことがございます。それは氏がモラルセンスと論理的意識の差異として御述べになつたことを調べて見ますとすぐ發見されることですから、私は順序として其方に移りませう。

氏はモラルセンスといふことを極めて狹義な意味として、只外部に現はれた行爲を指すものと限定されました。そしてそこに氏の所謂倫理的意識との間に區別を樹てやうとされました。それは次の御言葉で分ります。

「モラルセンスがないと云へば、一般に不道德な人間を指すものだらうが、不道德な人間必ずしも倫理的意識が痛切で有り得ないことはない。と同時に道德的な人間必ずしも倫理

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

的意識が痛切な譯でもない。」

氏は眞にモラルセンスといふ意味をかう御とりになつたのなら、只この一點から考へてもモラルセンスを缺くといふことは畜生といふことにはなりさうにもないやうに思はれます。しかも「墮落はしてもそれに對する悔悟の眼さへ休まなければなほ人間として價値あるものと信ずる」とまで力說された氏ではありませんか。

かう考へて來ますと氏の云はれるところに矛盾の多いのに驚かずにはゐられません。そして、何ですか氏御自身もこの二つの言葉を混同――いゝえ混同ではございません、もともと一つものと思つていらつしやるやうに私には思はれてならないのです。

竊に思ふに御自身はたしかに意識していらつしやらなかつたにせよ、自家辯護の必要上、強て兩者の間にこんな苦しい異を樹てゝ無理な詭辯を弄されたものではないでせうか。「墮落すればする程一方でモラルセンスが銳くならねばならぬといふ意味云々」と私が書いた一事から考へてもあすこで少くとも私の意味したモラルセレスが外部に現はれた行爲でない位のことは誰でも一見して氣付くことだらうと思ひます。まして氏自身の生活が創造した自己の第一義的の道德を提唱せられるでもなく、また倫理とか道德とかいふ言葉を使ひながら其內容を一度として御示しになるでもなく。(といふのは矢張因襲的な通俗的な觀念

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にまだ安んじていらつしやられるからだらうと思ひますが）そして、さういふ道德に違反した行爲をした場合、漠然と內に感ずる悔悟の念を倫理的意識と呼んでゐられるに於て猶更です。

さて御話が少し橫道にそれたかも知れませんが、第一に私の意味したモラルセンスと氏の所謂モラルセンスとの差異點と、第二に氏の所謂モラルセンスと倫理的意識との差異點とを述べ、最後に私の意味するモラルセンスと氏の所謂倫理的意識とは實はその內容の全く同じものだといふことを示した積りでございます。これで問題の要點、氏が氏の所謂「甚しい誤解」の根據とされた處は壞れた譯ですが、私はなほも誤解を恐れて、今少し委しく氏の所謂倫理若しくは道德が因襲以上のものでない所以を說明し、かた〳〵私の龍子の評と氏の龍子の評との比較について、異議ある箇處を一々指摘したいと思ひます。

龍子が夫の前にした辯解がなつてゐないとした點に於て、氏と私と同意見なのは氏の云ばれた通りでございます。ところでこゝに云はねばならぬことは氏と私との「龍子」に對する立脚地の相違です。私はあの作を讀んだ時、すぐ次のやうな懸念を懷いたのでした。「作者始め、一般世間も龍子のやうな女を新しい女と思つてゐるのではあるまいか。即ち只、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

單に男に反抗すること、又あの場合、男(慶治)によつて代表されてゐる外面的道德(夫ある女が他の男を愛するは不貞だといふ概念)に服從しないことのみを以て新しい女の態度を示すものだと思つてゐるのではあるまいか。作者はあんな淺薄な、皮相な見方をしてそれで幾分なり新しい女を描いたといふやうな氣にでもなつてゐるのではあるまいか」と。

そしてこの懸念が私をして「龍子」を評するやうな氣にもさせた位なのでした。最初「作品を評するのが此稿の目的でないと斷つたのから考へても、「又自己を僞るに慣れた、そして虐けられた在來の女だつたらこの際おとなしく通俗道德の審判に盲從して男のいふまゝに男の前で男に詫びる處だつたけれど龍子はさうはしなかつた。この點は一寸見ると多少なり本當に生きやうとする新婦人の態度を忍ばせるけれど龍子は決してさういふ婦人ではなかつた云々」と記したのから見ても分りませう。今一つ、私は慶治に對して、換言すれば「男」の造つた、女から見て時として可成り不道理な世間道德——有夫の女が他の男を愛するのは不德だとする——に對して必ずしもそれを不德だと判定し得ない場合のあることを、私達の立場から云つて置かねばならなかつたのです。(龍子を只辯護したものとるのは間違ひです。龍子では駄目ですから、龍子にかはつて、男——因襲道德の前に、少多なり私達の新婦人道德を主張して置いたのです。)これは新しい女としての私の立場として又態度

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

として當然なことだらうと思ひます。然るに氏は新しい女といふやうなものには又因襲道德が女の自由と發展とをどの位妨げてゐるかといふやうなことには私達程には日頃から理解も同情もおもちにならない。寧ろ男性共通な我儘やら、卑怯、陋劣な根性から知ず〳〵の間に一種の反感さへおもちになつて、無敎育な女が好きだ、とか無智な女が好きだとかいふやうなことも時として言つてゐられる方である。この點に於て氏は德田秋江氏や鈴木三重吉氏などゝ共に女に對しては誠に古い囚はれた考へしかおもちにならない方である。(これは只漫然と申すのではありません。氏のこれまで御發表になつたものから判斷して申すのです。)此の點が龍子を評する氏と私との最初からの立場の相違の一つで、從つて龍子に對する着眼點に相違を來した一つの理由でありませう。

この點をまづ念頭に置いて兩者の評(龍子に對する)を比較すると其相違點が餘程はつきりしてくるだらうと思ひます。氏も多少こゝに氣付いてゐられるらしい箇所も全く見えないではありませんけれどこの混同から來てゐる誤解も少くないやうに見受けます。

さてこれから氏が擧げられた兩者の比較評についてその誤解ある箇處を一々指摘し、更に一歩進めて兩者の間のもつと深い本質的な內容的な相違に及ぶ筈ですが、あまり長くなりましたし、暑さが烈しいので、もうとても書くのがいやになりました。今度はこれ丈けにして、なほ興味が續いたら次號で書きます。

——三、七、二六——

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

廣がる愛——生田花世

私は決して言はんが爲にのみ云つてはゐない。また私は單に考へんが爲めにのみ考へてはゐない。まことに私の言葉は、私の命を軋らせ、私の行爲を善くせんが爲にのみ、只管此の身に眞の事を行はんが爲にのみ、私は自分の生活を考へてゐる。私の言葉は幼稚である。然し私には行ひが伴つてゐる。私の思索は單調である。然し私には心の熱が溢れてゐる。私は幼稚であり、且つ單調である事が苦しい。然しやがて此の苦しい裡から私には大なる解脱の生れて來る事を翹望する事が出來る。

（四月二十五日）

○

あの人はあんなにぢれてゐる。そしてあんなに鬱いでゐる。友達に出した端書の餘白に、多忙の上にいろ〳〵苦痛を覺え、つくづく生きるのが厭になり候と書いた。何故、あの人はあんなに鬱ぎ出したのだらう今日は朝から蒼白い顏をして、眉根に不快な太い皺を寄せて、部屋中をぐる〳〵と歩き廻つたり、机の前に坐つても、心が旋風のやうに苛々しさうに書架から、トルストイのものや、ドストイエフスキーのものや、ハイネの全集やレクラム本や、さうしたも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のを引き出して來て、一頁開いては、首を振り、二頁開いては目を瞑つたり、眉を顰めたり、さうかと思ふと、狼狽(あはて)たやうに原稿紙に二三行書いて反古にしたり、まるで正氣でないやうな苦しみやうである。

あまりに眞面目すぎるものは滑稽を感じさせる。あまりに苦しんでゐる人は戲畫(カルカチユア)の題材となる。私はお茶でもあげれば此の人が新しい心持となるかも知れぬやうに思つて、机の側にゆくと、詩の斷片のやうなものを二三行書いて、また苦悶に耽つてゐる外には暗い煙のやうな雨が、しとしとと降つてゐる。部屋の中まで水つぽく濕れて、鬱陶しく重苦しい。此の人はいつまで、こんなにくよくよと鬱いで、不機嫌な顏をして暮すのだらう？ 何故あのやうにぢれるだらう。尤も此の人は、自分の苦悶を他人に移して復讐する性質(たち)の人ではない。自分の氣持が惡いからと云つて、細君をいぢめたり、子供を怒鳴りつけたり、自分の懊惱を酒に紛らせたり、器物に當りちらしたりするやうな、我儘な性癖はない。それは、此の人が今まで少しも我儘などの出來ぬ、苦痛の多い生活を經て來た人であるからだ。それだけ、私は氣樂でもあり。氣の毒にも思はれる。

かうして同じ家の中に生きてゐる。朝から晩まで、顏と顏とを接してゐて、そして此の人の心を今あのやうに搔ぎ混せてゐる苦痛の核(たね)が、何であるかを、どうして私が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

知らないで居られよう。パンの仕事をしてくれなくて、お米櫃には、もう一握りのお米しか無い。然しそれは私に於ける苦痛ではない。然しあのやうにぢれてゐるのを見ると、可哀想で堪らない。どうかしてあの望なき暗闇の心に赤い光を點じたい。此の自分の心の熱を移して、あの蒼白い顏の色と、灰色の疲れた瞳とに、生氣を得させたい。

何があのやうに、苦痛を覺える源となつたか。私はその苦痛の核を理解して、此の人を愛したいと思つた。けれども、私は正面からその苦痛に私の手を出して、此の人に、却つて反感を起させたくはなかつた。あの人の反感を呼び起す事なしに、あの人の苦痛を私の智慧で光としたい。さうすれば、私の命を擴大する事が出來る。人は嗣ぎ出せば無限に嗣ぐ事が出來る。嗣ぐと云ふ事に、價ひのない事はない。然しそれには適當の分量といふものがなければならない。私は此の人の苛立つた事や、嗣ぐ事を惡いとは思はない。然し、それには適當の分量を感じなければ、いい事ではない。人の心は、思索の立場の一居一動によつて、自由に色を變じてゆく。それほど、自由自在な人の心理狀態を思ふ時、私は、自分の最愛の命を、今、ああした不良の狀態に置きたくない。私はさう思つて、蒼白い顏と灰色の瞳とを、マリアのやうな心持で注視した。そして、自分の心から此の心に火を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

點ずるすべを工夫した。

たちのいい苦痛ならば、出來るだけ、此の魂は苦しんだ方がいい。喜ぶべき心境の展開の前兆ならば、どれだけぢれても幸である。私はそのやうな事を思ひながら、あの人の側で、自分のする事をしてゐた。あの人の命の動く一定の呼吸か、日一日と私の胸に響いて感じられる。云はずとも聞き見ずとも感じ、形と影と一塊の肉となる日は、さう遠い將來ではなく思はれる。然し二人が、かう云ふ共同の生活に入つてからまだ、五十日にすら、なるかならない。まだ二人は二人の愛の第一の試みのさへ出逢つてはゐない。まだ二人ともに喘ぐやうな苦痛にも乘り上げてはゐない。

私はそのやうな事を思ひながら、床屋にゆく事をすゝめた。多分髮を凉しくしたら新しい氣分が生れて來ると思はれて。

すると、あの人は、丁度七つ八つの男の子のやうに家を出た。（四月二十八日）

○

私の歩いて來た人生の路を、私の來たやうな出發點から、私の抱いてゐたやうな心持で、自分の世界を創つてゆかうと云ふ、――さうして周圍の壓迫を破つて逃れ出した、冒險の途に上らうと云ふ――此の人はさう云ふ人なのだ。此の人はこれから戰を始めようとする人だ。さうして此の人は、今私の前に、あのやうに心をひざまづいて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私の言葉を聞いてゐる。私はH――の名刺をもつて、私を始めて訪ねて來た、T氏に自分でも豫期しなかつた程熱い同情を持つた。私は此の人に私の境遇の許す限りの心配をした。そして、私の踏んで來た、多くの艱難と、多くの經驗とを此の人に話してあげた。而して私は自分の言葉と言葉との間で、自分の涙の迸るやうな激しい懷舊のおもひに觸れた。今私の前に、心をうなだれてゐるT――氏の感情は、五年昔の私のあの詰めきつた血の流れるやうな感情とひとしいものであらう。私は遂に此の人の事を自分の追想の涙に通じて、自分の生活の一部の如く感じた。私は我を忘れて、語の激するのを抑へきれなかつた。私は強い調子でT――氏をはげましたり諫めたりした。私はまた此の人の命の發展を祈る心持を強く感じた。私は敎育者でもなく、また宗敎家でもない。まして、今私の云ふ言葉は、人の爲には語らずして、自分の爲めに語つてゐた。私には今、人を愛する慾望かきざした。今までは異性を愛してゐたその愛が今は、同性の上に流れる慾望がきざした。私は自分の心から新しい慾望の芽を見付け出した！と思つた。

私はT――氏を玄關に送り出した時、涙の滲むのを覺えた。

（四月廿九日）

○

「あいた、た、た、た―と碎かれて血の滲

む呻きのやうな女の悲鳴が、自分の隣の家から――うす紅い海棠櫻の咲いてゐる春の午後一時、――さうした白日の中を、私と生田さんと二人、机を突き合して、原稿を書いてゐた耳に聞えた。二人は顔を見合つて、ペンを置いた。

「なぜ、私をなぐるんです。なぜ、そのやうに下駄なんかでなぐるんです。そんな腕力に訴へなくつたつて……、私はまだ、親にも兄弟にも此の身體一つぶたれた事はないのですよ。なぜ、そんな野蠻な事をなさるんです。云つて下さい。さあ、口で言つて下さい。」

私たちは默つて、心を澄ましてゐた。

「出てゆきますとも、出てゆきますとも、出てゆきますからね。手を放して下さいよう。さう締めつけちやあ、歩けませんよあれ、手を放して下さいつたら、」

「女は、せえせいと息を切らして蛇ののたうつたやうな悲鳴を混せて、叫びつづけた

隣りの家の夫婦の爭ひは、二三日前から續いてゐたが、今日はそれが破裂したのである。けたたましい男の高足を踏む疊の音と男の足にもつれて、息を吊り上げられてゆくやうな女のけはひと入り混つて、いつまでも騒々しい。

「ねえ、だから、云ふのぢやありませんか私の親許を呼んで引き渡して下さい。さうしたら、あなただつて、腹が立たなくつていいんぢやありませんか」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云ふヒステリカルな聲と、愛でも引き曳られてゐるらしい、嵐のやうな息とか聞える。私は壁一重むかうの家の此の狂暴な騒ぎに驚いて、目を瞠つて、身を縮めてた〴〵夫の顔を見守つてゐた。そして夫の顔にあらはれる、細かな表情の一つ一つにも自分の心を顫はせながら、強い〳〵愛の心持に押されて、夫の膝に手を伸ばした。隣りの二人が争へば争ふ程、私の愛は強く濃く増してゆく感じを隠すすべがなかつた

（同じ日）

○

人間である以上、私は死ぬ刹那まで、感想(おもひ)があると信じられる。その感想(おもひ)を此の紙面に書き止めるのか、私の生涯の計畫ではなかつたが。そしてその感想をよきものとし、眞のものとし、藝術品とし、高きものとし、美しきものとするために、私の命をみがき、私の生活を純化し洗練するために私は死に至るまで讀書をしたい。死ぬまで想ひを書くとともに、死ぬまで想ひの糧となる讀書をいとなみたい。自分の此の未熟を救ひたい。

妻の生活は讀書を拂させねば止まぬだらうか。私はさうでないと思ふ。私はさうでないと思つて、反抗の態度に出たい。

（五月五日）

○

　私は此の上なく幸福になつたと思つた。ほとんど此の幸福に沒頭して、永遠の靜止に落ちたやうな鈍いだらけ心持まで感じた。そして私は日々に怠けてゆくやうな恐れと不安とを覺えるやうになつた。此の愛は私を靜止させ、沈滯させる愛ではない。益々私を擴張させてくれる愛、益々私を生長させてくれる愛でなくてはならないと思ひながら、猶私の心は日々に緊張を失つていつた。

　然し、今朝、私は戸を開けて、初夏の朝日の光が空にも地面にも洪水のやうに漲つた、その爽かな裡に浸つて、心の底から、不安を破る反抗の刀が湧き起つた。

　今は最後ではない。今は最初である。

　二三日前、生田樣は私にさう告げた。自分は二十三で結婚をした。是れは早い結婚であるかも知れない。然し自分にとつて、此の結婚は出發であつて到着ではない。と云はれた。私は今、その言葉の上に生きたのである。私はポンプの柄に手を觸えて、井戸の傍から、目白の方の高臺の森と、森に並ぶ寺の屋根とを眺めてゐた。

（五月六日）

○

　あなたは反省が足りない。あなたは自分を醜いとさへ云へば、それでもうよく自分を反省し得たとおもつてゐる。あなたには否定がない。あなたにはうたがひがない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたは、自分を醜惡だとは云ふか、自分の何が、醜惡であるかと云ふ事を知つてゐるだらうか。もつと的確に考へねば、あなたの心は進まないと生田樣は云はれた。私はそれを聞いて恥ぢねばならなかつた。それは私のうなづかねばならぬ事であつた。まことに私は反省をよくしてゐない。私は常に、足らはぬ自分のために悲しんでゐる然しその悲しみはいつも抽象的である。いつも私の反省は具體的ではない。それで私はいつまでも同じところを廻つてうろついてゐるばかりである。もつと大膽に自分の腐敗を自分に見せ、自分の醜惡を自分の心に悲しまねばならない。私はそれをしなければならない。それが出來ぬと云ふ事は承知の出來ぬ事と思ふ。

○

女は太陽である。太陽は森羅萬象を溫め且つ生育の路を照らす光である。その、ものを溫める熱、そのものの生育の路を照らす光は、愛である。愛は即ち女である。女は森羅萬象を溫め、且つその生育の路を照らす光である。それで私は今正しく思ふ。女は太陽であると。

（六月十日）

○

愛は廣がる。さうして愛は廣がる程、よいものとなる。自己はかくして他の者の命となり、他の者の命をやがて自己の命とするのであらう。

（同じ日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最近の感想

野枝

細々した日々の感想を洩れなく書きつけて見たらばと思ふが、まだなか〳〵さうは行かないものである。

最近の私の感じた事と云へば、「エゴ」の中の「家出の前後」と題する千家元麿氏の脚本である。私は前からあのグループの人達の書くものには可なりな興味をもつて注意してゐた。そして彼の人たちに對する他の人たちの態度をぢつと見てゐた。併し何時迄たつても一人として彼の人たちに目を向けやうとする人はなかつた。今も矢張りない。そして私も默つてゐた。私はけれどこの上默つてゐやうとは思はない、私は世間に澤山ころがつてゐる具眼者とか批評家が何の爲めに、存在するか分らなくなつてしまつた。私は寧ろ腹立たしい。併しそれ等の批評家が藝術的氣分がどうだとか或は技巧だとか云つてゐるのを聞くと情なくなる。何がわかるものかと思ふ。私はそれらの技巧や氣分など云ふものが眞實さか力強い情熱の前に如何に小さく價値のないものに見えるかと云ふことを一層この脚本に依つてたしかめ得た。

私はその內容だとかそれから人物だとか云ふそんな批評は此處に試みたくはない。それよりも私は先づそれを讀んで下さい、と皆にたのみたい。恐らくは、そんな雜誌の存在をさへ知らない人が多いだらうと思ふ。是非よんで頂きたい、屹度々々それを讀んだ人たちはあの物ぐるほしい程に充實しきつた眞實　力強い熱と呼吸の渦卷の中に卷き込まれないではゐないだらう。

○

九月號には婦人参政權運動について何か一寸かいて見たいと思つてゐる。それについてこの間「婦人評論」に揭げられた黑岩氏の「英國選擧婦人に同情す」と云ふ論文を讀んで見た。一應の理屈は私たちも同感である。併しまだ〳〵黑岩氏は本當に衷心から婦人に理解や同情を持つてゐられるとは私にはどうしても信じられない。あの論文をとほしてさへ陋劣な態度がすかし眺められる。黑岩氏の婦人に對する態度はまだ本當のものではない。まだ腰のすはり處がちがつてゐる。私は今此處に生憎その雜誌がないので具體的な例を擧げて云ふことは一寸出來ないが黑岩氏はまだ頑として男尊女卑の信條にかぢりついてゐられるのがはつきりわかつてゐる。もしあの問題が外國といふ對岸の出來ごとでなく自國のことゝなつたら恐らく黑岩氏は私刑を絶叫されるであらうと思はれる。局

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外者だから根據は單純でも貧弱でも兎に角婦人側に同情が出來たのだ。若しその渦中に投じたら屹度あの根本にひそんでゐるものが頭を出すにきまつてゐる。若しも同氏が腹のどん底から婦人側に對して充分な尊敬と同情さを寄せ得らるゝならば何故また私たち日本婦人としての一番手近かな痛切な問題に對して考へてゐる者に向つて理解を有せられないのだらう。私たちはまだそれを他人にまで強ひてやしない。たゞ自分の問題として考へつゝあるのだ。何等運動の形に於ても現はれてはゐない。それに對してさへも世間一般の有象無象の何の根據もない「うわさばなし」に乘せられて妙な見當ちがいなことばかり云つてゐる人たちに何で本當の理解が出來やう。それは丁度意志の惡い姑が他家の姑の嫁いびりの話を聞いて妹嫁に同情するものと何の違ひもない。私たちには寧ろ滑稽にしか見えない。英國婦人連はそんな人達に同情されるのを本當によろこぶかどうか。猶なほ同氏のその論文についてはもつと具體的に書いて見たいと思つてゐる。

房枝

私は過去に於て、出來るだけ悲しい事實の前には眼を閉ぢて見ない樣に見ない樣にとしてゐました。そうして自からを欺いてゐました。現在は何事によらず正面—裏面—側面—から眉を上げて見ることにつとめてゐます。而して私の行手には惡鬼が横行跋扈してゐます。而して私が幸福だと思ふことは私の兩親を初め、周圍のすべての人は不幸だと言つて防がう防がうとしてゐます。私の過去はあまりに美し過ぎました事は高言しても憚りません。しかし其美しさは殆んど無意識的に過ぎませんでした。表面ばかりを見て裏面を見ることを厭つてゐました。たまに裏面を見ても皮相の觀に過ぎませんでした。

ですから世の中なぞ至つて簡單なものさ早呑み込みして可成の幸福を感じて居ました。自分さへ正直に、忠實にして居れば世間のすべての人は優しく親切で頼もしく、そして誰でもが自分を愛してゐるものと堅く堅く信じて居ました。而し其甘い樣な淡いはかない惡夢も軈て覺めてきました。無意識—から半意識に入つた時代は目もあてられぬ程私の心理狀態は無慘でした。世間の人の信頼すべからざる酷たらしい、正義に合はない、堪ふべからざる恥辱と無能なる下賤人—伍落者—優しからざるおベツカ者—イカサマ師等が、ウヨウヨして居るのに先づ驚愕—恐怖—悲哀—さ變つて來ました。自分のあまりに美しかつた事が口惜しくて取り返しのつかぬ輕蔑された樣な恥辱を感ぜずには居られなくなりました。

嗚呼私は覺醒すると同時に孤獨となりました。犇犇さ胸を刺す孤獨の淋しさ。時には涙が知らず識らずの間に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

滲み出るので自分のまだ弱いにハットして自からを叱咤してゐました。

そうして限りなき失望と、怨恨と憤怒と憎悪と未練さを懐いて快々として故里の山河に別れを告げたのは春未だ寒い今年の三月二十九日です。再び言はして下さい、私の過去はあまりに美し過ぎました。そうして私は自己に不忠實不眞面目でした。しかも依賴心が強く、自分が仕なくとも誰がしてくれるだらうさ的もない誰かを心待ちに待つてゐるこさも度々ありました。婢僕に對する時の様に。どうと誰かは一人も來ません。然かも私が可成り親切を盡した人々さへ姿も形も見せなくなりました。

自己を殺してまでの犧牲と言ふ名に憧憬した時代は行過ぎました。而して自我主義となりました。自己を虛僞の生活から脱却せしめるには永遠に自己を生かすに足る所置をとられねばならぬ。と私は叫びました。それに現在の自分は存在を認められぬ迄に餘りに小さな見すぼらしい學識のないのが有りありと目に見えます。而して氣が臆せてなりません然かし私は滿身に眞と實とを注射してエネルギーの續くかぎり孜孜として運命の開拓に努力しなければならぬ天命を知りました。ベターはベストの敵です。で、私はベストを盡さねばなりません。兎に角他人に信實を要求した私は一等馬鹿者でした。

○

私は三月上京する迄越後のM町の尋常高等小學校に奉職して居ました。M町は北郡での第一の都で舊藩士内藤紀伊の守の城下で、未だに舊藩士の人と町家の人では異國人に對する樣な態度で役場學校等も全々區別されてある過去の町です。殊に舊藩士の人は頽廢的な保守的な―暗い町です。しかし、三面川の鮭、瀨波温泉等によつて幾分か將來は認められてあります。舊藩士の子弟の入る學校を本町學校と言つて町家の子供や附近の田舍の子供などの入る學校を町學校と言ひます。私は町學校に奉職して居りました。其校には二十四人の職員が居ました。學校内の職員だけで讀書會と言つて月々廿錢づつ出し合つて新刊の書を順序に購讀し學期末每に回覽ずみの書を入札するのでつまり多くの本を讀みかつ落札したいので私も赴任する早々其會へ入りました。

新刊の本が當着すると町の本屋は三軒で競爭して學校へ持つて來ます。

會長が本の名を全部書いたのを廻すので印の澤山捺されたのから七册なり五册なりを買う規則でした。しかし一册の時は印の數が讀書會員半數以上の時は買はれるのでした。

大正二年六月だと確か記憶してゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大陽の臨時増刊て、

婦人問題號と云ふのが出ました、私が申すまでもなく既に御承知てせうか、私の述べたいのは此の婦人問題號について百十里隔てた田舍の小學校に起きた問題てす。

益田と言ふ本屋は婦人問題號を讀書會て買つてくれと持つて來ました、のて會長が初め見て之れは？？と言ひました、會長は勿論男で首席訓導のWと云ふ人です。こんな本買う必要はないなア――と嘲笑しました。廿四人の職員の中十五人は男てあと九名が女です。

然かし本屋の持つて來たのてすから型の通り印を捺すべく廻されました、男の方は一人も印を捺しませんそれに反して女は九名とも印を捺しました私は勿論希望と書きました。

私は中食後生徒に用事を言付けたりなどしてすこしおそく教員室へ入りました口角泡を飛ばして男女火鉢を間に相對して常になく騷動しくありました、私が入つてからすこし話が途切れました。火鉢の南東側には會長のW氏を初め十三四名の男先生と西北側には八名の女教員が居りました。其日は丁度校長は新潟市の校長會議に出席して留守でした。

Hと呼ぶ五尺二寸もある女教員は震ひを帶びた聲で私の名をよびましたそうして次の樣に言ひました。

こんなつまらん婦人問題など女に見せては新しい女ばかり出來て男を尻の下に敷いて、御飯さへろくに炊く事を知らない女ばかりになるからさいつて折角印を捺したものまでも、消したりしたので印をおしたのは私共九人だけです。私達はあんまり馬鹿にされてゐますから今度はどんな本が來ても印は捺しませんと言つたんです。讀書會からも脫會しませう、どでせう？

私は十五分の休み時間に一寸見たゞけて、內容は未だよくわかりませんけれど婦人問題を書いた人達は文部省の道學者や又名を知られて居ても一向頭の成つてゐない古い男子が古い頭で書いだのが多い樣てした婦人問題だからとて必ず女性のみ見るべきものでもないでせう。女性は自身のことですから旣でに自分と云ふ者に付いて考へて居ますからむしろ男性の方に讀んでもらつて大に反省して戴きたい。しかも其內容は男性の方が多く書かれたのですから私共女性を出來るだけ奴隷扱ひにし保守的にし樣さばかり書いて男性自身の都合の好い樣に都合の好い樣にと、けれども私共女性は同情の薄い婦人問題などいくら、書かれても別にビクともしません旣に私共女性の行く道は開かれてありますから亦此の本を見たからとて直にノラやマグダに皆が成ると言ふ譯でもありますまい、にもかゝはらず此の本を私共に讀ませる程の雅量の無い樣な小さい男性など却つて可愛相ぢあありませんか、と私は言ひました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

五色の酒だとか、何とか言ふ聲が聞えますけれども、私はかまはず、僅三十錢ばかりの本、九人で一册づゝ買つたところで知れてゐます。讀書會で買はないから讀まれないと云ふ事はありませんから、私は、今日歸りに盆田から買つて行きます。

私が之だけ喋べる間、誰も何んとも婦人問題に付いて一言する人はありませんでした。

兎も角も印を捺した方四人までが譯もなく消されたのはなんて言ふ無能の仕打だらうと、私は四人の方に一一突きつけておき〻しました。イヤ僕は買いたいから印を捺したけれど誰かゞ止せ止せと云ふので、しかし僕が消したのではありません。なんと云ふ不見識な答でせう。そうですかそんなら猶更です、貴下は買いたいお希望なんでせう御自身でお消にならないものなら元の通りになさいませんか。

そう――と言ひながらチラと首席訓導の方を見ました、私はかまはず次の先生にも次の先生にも同樣にしました。結局婦人問題號は到頭買うことになりました。女は各自に買ひました。

讀書會で婦人問題號を買つたら印を捺さない先生方がイの一番にわい〱たかつて讀んで名士の古い寫眞なぞ口口に評してゐました。

暑中休暇後婦人問題號の行方不明一ヶ月餘。

第二の最も新しい人間を作り出す學校教員が最も腐敗し、かつヤツコラサの無理解の無能の集りですから日本はまだ〱婦人解放どころか、氣の毒な寧ろ滑稽な人達をどういたしませう。私は先新しい男性のないのを最も悲しく思ひます。

○　　　　　　　　　　　　らいてう

島田信子といふ地方婦人から左のやうな手紙が來た。眞面目に云はれたものと思へるし、又同氏の社に對する忠言は所謂教養ある人のよく云はれる代表的意見のやうにも思へるから、手紙の全文をのせると共に、簡單な御答へをして置かうと思ふ。

島田氏よりの手紙

「實をいへば私は世間でいふ新らしい女の方々の團體たる青鞜社に對しては、今迄は只不眞面目に紹介された新聞や雜誌の記事に依てのみ名を知る位であつたので、同情もなければ勿論尊敬もして居なかつた、然し偶然の機會から其機關雜誌の青鞜を讀んで始めて自分の誤られて居た事を知ると共に女の自覺といふ事を恐れて故ら社界に僞り紹介をするかの如く見ゆる男の人々の卑怯に對し腹立たしい樣に感じた。私は青鞜社の方々が何處迄も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

徹底しなければやまれぬといふ其勇氣に最も尊敬を表する者である。私も無論其一人である事を悲しむが世の多くの婦人は現在の婦人の狀態に對し滿足に思つて居る人は蓋し多くはなからうと思ふ。けれど、彼は大方其囚れから脫出するのには余りに勇氣がなく、殆ど無意義な習慣すらも破る事は甚だ困難を感ずるのである、からまして肉身に對する情義とか又は何處迄も自分といふものをつきつめて眞に自分を知り、僞らざる自己の要求に從つて行動――どちらつかずのどうでも主義の如き卑屈な平安に安ずる事の出來ない眞面目な生活に伴ふ煩悶、困難に打勝つ力の欠けて居る爲に不平の依つて來る眞因を究むる事もなく、よし究めても其所信を斷行する勇氣もない爲に多くは無意義な、嚴正にいへば不道德な生涯を送つて一生を空費して仕舞ふのであると思ふ。それて私はどうかこれからは私もどうか自分さいふものを深く知り、そして其の僞らざる要求に從つて所信を斷行し眞面目な我が生を送り度いと思ふ、雷鳥氏の御言葉の中にも爾後は人の爲にも亦主義を宣傳し度いといふのがあつたと思ふどうか折角益々御主義の爲奮鬪なすつて私の如く喚覺めかかつた者の道しるべとなつて頂きたいと思います。

それで私が青鞜について聊か飽足らず思つた事は御社の方々が戀愛といふ事を余りに過重しては入らつしやらないかと思ふのです、尤も戀愛は婦人の生の重大な部分ではあります、しかし決して全體ではなからうと思ひますが、ともすれば生の全般と解釋する樣な風が誌上に見える樣に思ひます、世間の只浮々した好奇心を挑撥させ樣とする樣な新聞、雜誌の御社に關する譏謗の記事も多くは此間隙(と敢て云ひます)に乘じたのが主因ではないかと存じます、私は御社の方々の一點難り氣のない純潔な愛―僞らざる内的要求の儘に行動なさる勇ましい御態度に敬服致しますが、しかし苟にも其主義を宣傳し御自身ばかりでなく、多くの婦人の迷夢をも覺してやらふといふ程の御親切がおありになるならば、手段として一般世間に放縱、無節操と言ふ樣な非難はなるべく與ふる餘地の無い樣に御同意の方々が結束なさつては如何がと存じます、譬にも所謂たとひ正覺を得た人でも正位にばかり住する事を嫌つて、正偏自在に行動すべくすゝむる如く、苟にも人さいふ對照を御持ちになる以上は幾分其邊も御考へになつては如何かと思ひます。しかし御自身が只御自身の聲に從ひ眞直に生を指して入らつしやるといふのならばもとより何も申分はありません唯私は青鞜を讀み雷鳥樣の御考が全租周圍にも御心を御配りになる如く拜見致し又社中の他の方々の御考が餘りに愛といふ局部に偏して入らつしやる樣に思はるゝ節があつたので、自分の淺い智識、經驗をも憚らず斯樣な事を書きました次第。これが或はやはり半ば因習を脫し得ない證據

であるのかも知れません。併し多くの婦人の中には私と同感の人もあるかもわかりません。何卒もし一般の婦人連をも教導者となつて覺醒せしめ様といふ思召がおありになるならば、なほ一つの御考を煩したい樣に存じ、こんな、失禮なものを婦人の盲目的服從、偸安的生活を歎く餘りに書きました事でございます。此精神を御酌み取り下され、この考に對する思召を青鞜誌上でゝも承る事が出來ますならば甚だ幸に存じます。」

氏が「青鞜」をお讀みになつて始めて、今迄、世間の噂や、新聞雜誌の記事からこしらへてゐた自分の考へが間違つてゐたのに氣付かれたことはうれしく思ふ。けれど氏の御注意には——その御志はありがたく頂戴するけれど、全然御同意する譯にゆかない節もある。

氏はどれ丈のことから、何を根據として、社の者はあまりに戀愛を過重してゐるとか「戀愛を生の全般と解釋する樣な風が見える」とか云はれるのかその邊は私にはよく分らない。けれど戀愛に關する記事が割合に多くのつてゐるといふやうなことからでもそんな觀察をされたのではなからうか。成程世間には戀愛といふ文字を書いた丈でも、その人を放縱な奴だなどといふ人もある。戀愛や性の問題以外の問題を話すとあの女はなかなかしつかりしてゐる、話せるなどゝいひ、その女が偶々自分の考を戀愛や性の問題に及ぼすと、あれも矢張り女だとか、甚しいものは墮落の傾向があるとか、不眞面目な女だとかいふ者も教育家などにはよくあることだ。さういふ彼等こそ戀愛に對して、根本的に間違つた觀念をもつてゐるからなので 偶々自己の戀愛に對する不神聖な、不眞面目な、墮落した態度を示すものだ。

氏もまた何處かにまだ戀愛問題を人生に於ける自餘の問題よりも輕んじ、賤しめるやうな臭味が殘つてゐる人のやうだ。私共東洋人の心の中に深くしみ込んでゐる思想だが。

といつて私は戀愛至上論者では決してない。又エレンケイのものを飜譯するからといつて、ケイの思想が直に私の思想ではない。寧ろ私一個の内生活の經驗から云へばーたび否定の關門を通過せざるものの戀愛の價値を疑ふものである。その空虛を思ふものである。

けれど一旦肯定の世界に生きて考へる時、私共は「性」の問題を考へずにはゐられない。殊に、外面的な男女同權論などに到底滿足出來なくなつてゐる今日の婦人問題はもつと內容的に婦人の眞の生活について考へやうとしてゐる。さうして「性」の問題を到底無視することの出來ないことを知つた。否、寧ろ「性」の問題が婦人問題の根底に橫はる重要問題なのだから。婦人問題が社會問題として大なる問題である如く、戀愛問題も性の問題も社會問題として眞面目に考へねばならぬ重大なそして嚴肅な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

問題なのはいふ迄もない。

　私共はかうして自分の生活を考へ、又婦人の生活、人間の生活を思つて、自分の戀愛に關する經驗を發表したり、感想を述べたり、又研究もしたりするのだ。それをもつて、私共を放縱だとか、無貞操だとかいふものがあるなら、いふもの無智である。迷妄である。彼等のこの戀愛に對する誤まれる觀念を正さむがために、そして眞正な觀念を與へむがために、私共の眞面目な發表が更に必要でこそあれ、手加減する理由はどこにもないと思ふ。私は氏のいはれるやうな意味で周圍に心を配るなどゝいふやうなことを言つた覺えがない。折角青鞜を讀んで下さつたのだから、その序に今一歩進んで私共の精神ある處を解して頂きたい。

○

　最近の「朝日」に安河内警保局長の談として、こんなことが載つてゐた。今文壇に二つの大きな潮流があるがその一つは色欲の餓鬼で、今一つは衣食の餓鬼だ。そして青鞜社の連中はその前者、色欲の餓鬼だといふのである。あまり馬鹿々々しくつて御話にもならない。これが、何の責任もない、有象無象の一場のざれ言なら、私は今更とり上げてその愚を笑はうとも思はない。けれど責任ある當局者の言である以上、私は聞き捨てにする筈にはいかない。何を以て、何の根據があつて、こんな判斷が下せたのか私共は確かなことをきかなければならぬ。「青鞜」の何處に、又青鞜社の私共の生活の何處に、「色欲の餓鬼だ」といふことを證明するものがあるか、責任ある回答をして貰ひたい。

　それで明日、私と岩野清子さんとふたりで内務省へ行つて、警保局長に面會を乞ふことになつてゐる。其の模樣は次號で發表する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□暑中のことだし次號九月の紀念號に出來る丈力を入れたいと思つたので、本月は薄いものにしました。小說其他のせる筈の原稿があつたのでしたが次號に讓りました。

□野上さんの譯のソニヤは本月で譯了となりました。

□本月は遲れたので交換廣告は全部休みました、あしからず願ひます。

□次の紀念號のためによいものを御寄稿下さるやう特に皆樣に御願ひいたして置きます。私共は紀念號から、內容も體裁も思ひ切つて改めやうかと考へて居ります。表紙繪も改めます。

岩野さんも小林(哥津)さんも本號に書かれなかつたかはり九月號には力のはいつたものをのせられる筈です。小林さんのは戲曲。野枝さんは久しい以前から書かうと考へてゐたあることを小說に書くさうです。それから婦人參政權についての感想も書くなどゝ云つて居ます。加藤さんも是非小說を書くといつて居ます。

山田さん譯のオリブシユライネルの獵人ものせる筈です。其他野上さんにも瀨沼さんにも御願ひしやうと思つて居ます。私も何か出來る丈の自分を出したいと思つて居ます。

□補助團會員は今迄を限りとし、これ以上募集することは一先づ中止しました。

□社のものは近い中に一日多摩川へでも遊びに行かうと云つて居ます。けれど私も野枝さんもまだ博覽會を見ない。もう二三日で御仕舞いなのだから、その方へも一度は行きたいなどと言つてお互に忙しいのをこぼして居ます。

□一週間ばかり前、社へ內藤千代子の妹だといつて妙な田舍女學生が訪れて來ました。そして姉さんと尾竹さんとがこれから伺ふ筈だから待ち合せてゐるといふので、あげてやりました。すると今自分は姉さんと一緖に尾竹さんの家に宿つてゐるのだとか、姉さんは尾竹さんと合作するのだとか尾竹さんのお父さんが書いて下さつたんだと云つて私の家の番地を書いて紙片を出して示したりします。私は內藤千代子といふ人は丸で知りませんし、少し變だとは思つて居りましたが、そのまゝ相手になつて居ました。しばらくすると姉さんは今田村さんの御宅に行つてゐるのだ、あまり來るのが遲いからそ方へ行くと云つて、田村さんのお住所をたづねますから、或はほんとかとも思つて敎へてやりました。ところが後できけば田村さんの御宅へ行つては私と奧村氏とがその女の家に泊つて居るのだとか云つたさうです。又尾竹さんの處へも行つてそこで神戶

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の平塚明子だとかいつて、私の家に今泊つてゐるのだといふやうなことを云つてゐたさうです。言葉や風采から察しますと可成りな田舍ものらしい十八九の袴をはいた下品な女ですが、一寸、人をだますことは上手なやうです。その內に他の方の處へも出かけるかも知れませんから御注意なさい。

□岩野淸子さんの御宅でのフレンチの會は七月十五日から始まつて居ます。每週水曜と土曜の夜七時から九時迄集つて勉强して居ます。先生は澁谷うまのかみ氏。敎科書は曉星でつかつてゐるもの。なほ入會希望の方は社又は岩野氏(巢鴨村字宮仲)宛に御申込みなさい。

□北原白秋氏は一人雜誌「印度更沙」を九月より金尾文淵堂より發行の由。なほ同氏主宰の巡禮詩社は機關雜誌「地上巡禮」を同詩社より發行。九月創刊の筈。

□エレンケイの「戀愛と結婚」は九月、玄黃社より出版の筈。

□保持白雨氏は上京、結婚、小野氏と改名。社の事務は全くとられないことになりました。

□西國の筑紫三郎の下流なる某氏に。御手紙は拜見いたしました。新潮にごんな噂話が出てゐたのか知りませんが、御文面のことは事實相違。畧儀ながら、御答までに。

□靑鞜社の者だとかいつて、結婚媒介所へ行つた伊藤とか名のる若い婦人があつたさうですが、それは社の伊藤野枝さんではありません。社の伊藤さんは獨身の婦人ではなく、現に某氏と相愛の生活を送つてゐられます。世間では靑鞜社といへば大勢の婦人の群れのやうに思つてゐるやうですけれど、それは間違です。ほんとうに社員として今責任ある人は數人を出ません。社の名を利用する人のあるのには誠に困ります。今一つ、ずつと以前僅の間社員(しかも規則改正前)であつて、今は全く關係のない人達の行動に一々社をもちだされるのも困つたものです。

□保持氏が事務をとつてゐられた頃、一寸使つた廣告取の「關」といふ男は、とうに暇を出した者で、社には全く關係がありません。社の外交員だとか何とかまだいつてゐると見えて、社に變な手紙がくる時もありますから御注意迄に。(らいてう)

新刊紹介

文學上及醫學上より觀たる中年の女　西澤富則・菅谷晴一 共譯

獨逸の一女醫フィッシャア・デュッケルマン女史著「健全なる女」一名「文學に及び醫學上より觀たる婦人の交年期」と題する書を土臺として譯者が編述されたもので、かの有名なデンマークの女流作家カリン・ミヒヤエ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

リス女史の小說「危險なる年齡」の女主人公リントネル夫人の性格の心理的竝に生理的解決に努めてゐる。譯者はその序に於て「これによつて一種のスインクスたる中年の女の正體が多少なりとも見屆けられ得るならば譯者の喜びこれに過ぎたるはない」と云つてゐる。「危險なる年齡」の讀者に限らず、婦人の生活を思ふもの、婦人を理解せんとするものに必讀をおすゝめする

（二舍書房發行　定價壹圓）

波　　藤森成吉氏著

氏は帝大獨逸文科にゐられる方ださうだ。自分は所謂

木乃伊の口紅　　田村俊子氏著

最近田村俊子氏が「中央公論」「新潮」其他にて發表された小說、木乃伊の口紅、絲の朝、憂鬱な匂ひ、時雨の朝、ぬるい淚、炮烙の刑の六篇を收めたもの。自分は憂鬱な匂ひを最も氏の特徵を示した傑れた作だと思つた。裝幀は朝倉文夫氏　（牧民社發行、定價壹圓）

作家の書いたものよりもかういふ人の作を讀むのが好きだが、殘念ながら、まだその暇を得ない。批評はその內としてとにかく自序を玆に記して紹介にかへる。「私はこの小作をやむにやまれぬ內心の欲求に驅されて書いた。その述作の當時にはこれを出版しやうなどと云ふ心もちは更に覺えなかつた。（中略）その後に私は、この作の出版に就て、急に大きな欲望を感じ初めた。そこで父にせびつて、とうとう出版することにしたのである。

私はこの作を些しも僞らざる心持ちで書いた。さうした後の今、私は、私が舊自己の殼を脫いで、新しい自己の生命に生れたことを、泌み泌みと意識する。私はこの作を、私は青年の最初の紀念としてこゝに出版する私と同じく青年である人々は、この作の中に、きつと同感を見出すであらうと私は固く信ずる。この作は私の愛子である。」　（中興館書房發行　定價壹圓）

鐵道旅行案內　　鐵道院發行

鐵道に賴つて旅行せられむとする人々に向つて、其探勝遊覽の栞に供せむが爲に今度鐵道院で發行したもので、主として鐵道所管各線沿道の勝地を記述し、主なる名勝地には寫眞と地圖とを挿入し、別に卷頭には索引を附し、卷末には廻遊旅行の栞、鐵道營業案內、鐵道所管線路名稱表、鐵道系統表、沿線旅館一覽表、主要驛間乘客賃金表、鐵道院所管線路圖等も添へてあるから旅行者には何より便利なものだ。なほ朝鮮、南滿州、臺灣、樺太に於ける鐵行沿線勝地は附錄として大要擧げられてゐる。序ながら本書は博文館が飜刻して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一般の需用に應ずるため發賣する由。

子の見たる父トルストイ　播磨楢吉譯

杜翁の第三子イリヤトルストイ伯が翁の沒後、露都新聞に連載した「父翁回想記」を譯したもの、翁の日常生活、家庭の模樣、家族と翁との關係、ヤスナヤポリヤナ村の狀況、交友、煩悶時代、晩年、悲劇前後の事情を知るに極めて興味がある。トルストイ研究者の必讀すべき好資料であらう。卷頭には翁の親友ゲー畫伯師の書齋に於ける翁の肖像を始め數葉の寫眞がのつてゐる。なほ德富健次郎、昇曙夢兩氏の序も有益な文字である。

（新潮社發行　定價八拾五錢）

寄贈書物

一、子の見たる父トルストイ　イリヤ・トルストイ著　播磨楢吉譯　（定價八拾五錢）　新潮社發行

一、木乃伊の口紅　田村俊子著　（定價壹圓）　牧民社發行

一、波（小說）　藤森成吉著　（定價壹圓）　中興館書房發行

一、文學上及醫學上より觀たる中年の女　西澤富則 菅谷晴一 共譯　（定價壹圓）　二舍書房發行

一、鐵道旅行案內　鐵道院發行

一、牡丹刷毛　松井須磨子著　新潮社發行

寄贈雜誌

中央公論　白樺　藝美　女學世界
新思潮　現代の洋畫　六合雜誌
近代思想　我等　新潮　女學雜誌
藝文　生活と藝術　人生と表現　詩歌
層雲　婦女新聞　早稻田文學　みづゑ
蛇の舌　婦人の友　帝國文學　東亞藝術
心の花　秀才文壇　第三帝國　假面
新人　眞新婦人　反響　番紅花
新女界　三田文學　卓上　新佛教
新小說　海峽　自畫像　俳味
アララギ　創造　文藝復興　婦人文藝
サンデー　東洋哲學　新紀元　中外日報

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割增のこと）。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年七月二十六日印刷納本
大正三年八月一日發行

東京府下巣鴨上駒込四一一
青鞜社内
編輯兼發行人 中野初

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷人 中山訒四郎

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷所 大正社

禁轉載

發行所 東京府下巣鴨上駒込四一一 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 神田表神保町三番地 東京堂 電話本局四五六一番 振替東京二七〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的さす。

第二條　本社を青鞜社さ稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、賛助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌青鞜を發刊すること。「青鞜」には係員、社員、賛助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表するこさあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

(但し賛助員は出席隨意たるべし)

一、毎年一回大會を開くこさ、大會には賛助員を招待し講話を請ふこさあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を遂するため別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、賛助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に賛同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己に その責任を負ふものさす。係員は毎月「青鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人さし、內二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選するこそを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に賛同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「青鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齢の外に履歴の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と（小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。）最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　賛助員は本社の目的に賛同し、雜誌「青鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。賛助員は毎月青鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて事業す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

デュツケルマン女史著

文學士 西澤富則
醫學士 菅谷晴一
共譯

文學上より觀たる醫學上

中年の女

四六版函入洋裝
定價壹圓
送料八錢

賣捌 全國書林

婦人の一生で最も危險な時

は中年即ち交年期であります。此期の生理的變化は、顔容や精神變化を來し、又家庭に悲慘な運命を齎すものであります斯る時其婦人の相手として何人を選びますか、男醫は永久に婦人の心理を完全に領解し得る事は不可能であります。即ち本書は其の相談相手であり指導者であります。內容は、中年期の生理的及心理的變化を微細に說明し、性慾生活を詳述し、近代文學中の女主人公の諸性格を解剖し、最後に精神も肉體もいつ迄も若く美しくする眞の方法が說明してあります。文章は平易で流暢で、文學的興趣を味ひながら生理的智識を領得する事が出來ます。東京朝日、大阪朝日、國民、萬朝、中央、やまと、大阪每日、東京日々等の諸新聞によりて本書の價値は社會に紹介されて居ります。雜誌日本及日本人は「婦人の性慾問題を研究したるものなれども、單純なる性慾挑發の文字に非らず、未婚の老孃又は未亡人等の寡婦の處置に就て、如何の道を執るべきかに思ひを致す者は、こゝに好個の社會問題の提供せられたるに心づかん。」と許して居ります必ず御一讀をお薦め致します

東京市牛込區矢來町
二舍書房
電話番町四三一六
振替東京二六三七〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

記憶すべきは
No.4711.
優良卓越の良香水
皮膚衛生の最適品
No.4711.
オー、デ、コロー
印に御注意あれ
本品を頭痛、眩暈、嘔吐などの際に一度御試用になれば生涯其効は忘れられませぬ故に旅行の必携品として好評籍甚です
本品の數滴は著るしく皮膚を艶麗にし日ヤケ、を絶對に防ぎ、剃刀マケをせず實に一種言ふべからざる爽快を覺ゆ
No.4711.
Eau de Cologne
日本總代理店
マーヤ商會
神戸京町六八
横濱山下町二四
端書にて申込次第綺麗なる小冊子無料進呈
全國到る處の藥舗及化粧品店にあり

自畫像

八月號

■表紙繪（ゆきを）

航海まで（小説）　木村幹

イブセニスムの精髓（ショオ）　新關良三

フェヒネルに就て（ジエームス）　小熊虎之助

遠い國から（グウルモン）　菊池香一郎

■八月一日發行（定價廿錢）

發行所　東京府下西大久保七十八番地菊池方　自畫像社

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地（振替口座東京一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年5月30日発行　【第9回配本】

青鞜第4巻　8月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.4
no.8

University of Colorado at [redacted]
[redacted] 6746440

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第四卷
大正三年八月一日發行（毎月一回一日發行）第八號
青鞜
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可 第四巻
大正三年十月一日發行（毎月一回一日發行） 第九號

二週年紀念號

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可 第四巻
大正三年九月一日發行（毎月一回一日發行） 第八號
青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER